

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア先史文化特論	集中	集中講義	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-佐川 正敏	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	現代社会文化特論	集中	集中講義	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	LC 教員 1	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て

学びの継続	評価
	次のステージ・関連科目

学びの継続	
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	考古学特論 I	前期	木 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-池田 栄史	1年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 講義はアジアにおいて日本考古学が果たしてきた調査成果や考え方を概観する科目で、その学史を学ぶことは今後の研究に大いに役立つ。	メッセージ 自らの課題を公の場で積極的に発表し、多くの意見を聞き精度を高めるようになってほしい。
	到達目標 ① 南島文化の価値を周辺地域広めることを社会的な責任として自覚し、発信する。 ② 南島文化および周辺地域に域住民に共感し、南島地域および周辺地域の発展に貢献できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	参考文献、配布資料を読む
	2	日本考古学史（明治時代以前の研究①）	参考文献、配布資料を読む
	3	日本考古学史（明治時代以前の研究②）	参考文献、配布資料を読む
	4	日本考古学史（明治時代①）	参考文献、配布資料を読む
	5	日本考古学史（明治時代②）	参考文献、配布資料を読む
	6	日本考古学史（明治時代③）	参考文献、配布資料を読む
	7	日本考古学史（明治～大正時代①）	参考文献、配布資料を読む
	8	日本考古学史（明治～大正時代②）	参考文献、配布資料を読む
	9	日本考古学史（昭和時代、大戦前①）	参考文献、配布資料を読む
	10	日本考古学史（昭和時代、大戦前②）	参考文献、配布資料を読む
	11	日本考古学史（昭和時代、大戦前③）	参考文献、配布資料を読む
	12	日本考古学史（昭和時代、大戦前④）	参考文献、配布資料を読む
	13	日本考古学史（昭和時代、大戦前⑤）	参考文献、配布資料を読む
	14	日本考古学史（昭和時代、大戦後①）	参考文献、配布資料を読む
	15	日本考古学史（昭和時代、大戦後②）	参考文献、配布資料を読む
	16	まとめ・試験	
	テキスト・参考文献・資料など 講義の折りに資料や参考文献を紹介する。		
	学びの手立て 事前に講義のガイダンスをするので、その資料や参考文献を精読してもらおう。		
	評価 レポート提出と授業における発表を対象とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目 沖縄の考古学、南島先史学 I、アジア考古学などの関連科目。 (2) 次のステージ 本科目で学んだ具体的な知識を、その他の沖縄の歴史学、社会学などに関連づけ体系化する。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	考古学特論Ⅱ	後期	木6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-池田 栄史	1年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 講義は中世のアジアにおける日本、朝鮮、中国の活動がどの様に展開してきたかを最新考古学研究成果を通して学ぶ科目である。この時代は沖縄はグスク時代に相当し、往時の状況を考える上では欠かすことができない講義となる。	メッセージ 自らの課題を公の場で積極的に発表し、多くの意見を聞き精度を高めるようになってほしい。
	到達目標 ① 南島文化の価値を周辺地域広めることを社会的な責任として自覚し、発信する。 ② 南島文化および周辺地域に域住民に共感し、南島地域および周辺地域の発展に貢献できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	参考文献、配布資料を読む
	2	中世貿易陶磁器研究	参考文献、配布資料を読む
	3	〃	参考文献、配布資料を読む
	4	〃	参考文献、配布資料を読む
	5	〃	参考文献、配布資料を読む
	6	〃	参考文献、配布資料を読む
	7	〃	参考文献、配布資料を読む
	8	海底遺跡にみる蒙古襲来研究	参考文献、配布資料を読む
9	〃	参考文献、配布資料を読む	
10	〃	参考文献、配布資料を読む	
11	〃	参考文献、配布資料を読む	
12	〃	参考文献、配布資料を読む	
13	〃	参考文献、配布資料を読む	
14	〃	参考文献、配布資料を読む	
15	〃	参考文献、配布資料を読む	
16			
	テキスト・参考文献・資料など ・『中国の陶磁』 長谷部楽爾 平凡社 ・『海底に眠る蒙古襲来』 池田栄史 吉川弘文館 その他授業で紹介する。		
	学びの手立て 事前に講義のガイダンスをするので、その資料や参考文献を精読してもらおう。		
	評価 レポート提出と授業における発表を対象とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目 沖縄の考古学、南島先史学Ⅰ、アジア考古学などの関連科目。 (2) 次のステージ 本科目で学んだ具体的な知識を、その他の沖縄の歴史学、社会学などに関連づけ体系化する。
-------	---

※ポリシーとの関連性

2. 南島文化について、幅広い分野の一流の講師陣が専門的な知識によって対話的な指導を行う特論科目の提供。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語教育学特論 I	前期	木 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	1年	メールでお問い合わせください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>国語教育学研究の基礎として、戦後の国語教育の特質と歴史を知ること、教育者としての自己の立ち位置を知り、新しい時代の教育を創造する上で非常に重要です。本講では、戦後の文学教育史に焦点を絞り、読む行為（読書行為）の成立の可能性を追求してきた歴史を検討します。</p>	<p>語義の解説と考察をまとめて、授業に臨んでください。 【実務経験】中学校教諭の現場経験を生かして、授業実践に関する視点を意識した指導を行います。</p>
	到達目標	
	戦後の文学教育史について、説明することができる。 文学教育史をふまえ、これからの文学教育について「読書行為の成立」の点から意見を述べるすることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	テキストの精読・分析・考察
	2	戦後国語教育の出発点の問題	テキストの精読・分析・考察
	3	「言語教育と文学教育」論争	テキストの精読・分析・考察
	4	現実認識の文学教育	テキストの精読・分析・考察
	5	問題意識喚起の文学教育	テキストの精読・分析・考察
	6	「主観主義と客観主義」論争	テキストの精読・分析・考察
	7	十人十色の文学教育	テキストの精読・分析・考察
	8	状況認識の文学教育①	テキストの精読・分析・考察
	9	状況認識の文学教育②	テキストの精読・分析・考察
	10	関係認識・変革の文学教育	テキストの精読・分析・考察
	11	戦後教育としての国語単元学習①	テキストの精読・分析・考察
	12	戦後教育としての国語単元学習②	テキストの精読・分析・考察
	13	大村はま国語教育の理念と方法	テキストの精読・分析・考察
14	戦後国語教育史の人々①	テキストの精読・分析・考察	
15	戦後国語教育史の人々② まとめ	学びの振り返り	
16	予備日		
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書を使用する。 田近洵一『戦後国語教育問題史』大修館書店、1999（¥2,400）</p>		
	<p>学びの手立て</p> <p>【履修の心構え】事前にそれぞれのレポートに目を通して下さい。 【学びを深めるために】下記から1つ選択して下さい。 ①指定範囲の要旨をまとめ、私見をまとめて発表してもらい、それを討議することで授業を進めていきます。脚注には語義の解説も載せてください。 ②資料を読み、各自追求したいテーマを一つ絞ります。先行研究をもとに、考察し感想や疑問をまとめて下さい。各自の考察や疑問点を討議することで授業を進めます。</p>		
	<p>評価</p> <p>レジュメ（40%）、発表・討議（40%）、平常点（20%）</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>【上位科目】国語教育学特論 II 【次のステージ】国語科教育についての視野を広げるために、国語教育関連の学会や研究会へのオンライン参加を勧めます。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

2. 南島文化について、幅広い分野の一流の講師陣が専門的な知識によって対話的な指導を行う特論科目の提供。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語教育学特論Ⅱ	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	1年	メールでお問い合わせください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>国語教育学研究では文学の読みについて、1980年代より「読者論」が注目され、テキストの読みに対する読者の主体的参加をいかに捉えるかが議論されてきました。本講では、イーターの読者反応理論をもとに、学習者の読書過程やテキストとの相互作用について検討します。</p> <p>到達目標 学習者の読みの実態を想定しながら、考察することができる。「空所」を用いた問いを作ることができる。</p>	<p>語義の解説と考察をまとめて、授業に臨んでください。 【実務経験】中学校教諭の現場経験を生かして、授業実践に関する視点を意識した指導を行います。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) ガイダンス	テキストの精読・分析・考察
	2	(対) 部分芸術対普遍的解釈	テキストの精読・分析・考察
	3	(対) 作用美学理論のための予備考察①	テキストの精読・分析・考察
	4	(対) 作用美学理論のための予備考察②	テキストの精読・分析・考察
	5	(対) テキストのレパートリー①	テキストの精読・分析・考察
	6	(対) テキストのレパートリー②	テキストの精読・分析・考察
	7	(対) テキストのストラテジー	テキストの精読・分析・考察
	8	(対) テキスト理解の行為①	テキストの精読・分析・考察
	9	(対) テキスト理解の行為②	テキストの精読・分析・考察
	10	(対) 読書過程における受動的総合①	テキストの精読・分析・考察
	11	(対) 読書過程における受動的総合②	テキストの精読・分析・考察
	12	(対) テキストと読者の不均衡	テキストの精読・分析・考察
	13	(対) 構成行為の推進力①	テキストの精読・分析・考察
14	(対) 構成行為の推進力②	テキストの精読・分析・考察	
15	(対) 空所を用いた問い まとめ	学びの振り返り	
16	予備日		
<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>W. イーター著、嚮田収訳『行為としての読書』岩波新書、1998          【参考文献】R. ビーチ著、山元隆春訳『教師のための読者反応理論入門－読むことの学習を活性化するために－』溪水社、1998</p>			
<p>学びの手立て</p> <p>【履修の心構え】事前にそれぞれのレポートに目を通して下さい。          【学びを深めるために】下記から1つ選択して下さい。          ①指定範囲の要旨をまとめ、私見をまとめて発表してもらい、それを討議することで授業を進めていきます。脚注には語義の解説も載せてください。          ②資料を読み、各自追求したいテーマを一つ絞ります。先行研究をもとに、考察し感想や疑問をまとめて下さい。各自の考察や疑問点を討議することで授業を進めます。</p>			
<p>評価</p> <p>レジュメ (40%)、発表・討議 (40%)、平常点 (20%)</p>			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>【次のステージ】国語科教育についての視野を広げるために、国語教育関連の学会や研究会へのオンライン参加を勧めます。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 グローバルな視点を持って地域社会の課題に取り組むことで、沖縄の自立と国際社会の発展に貢献できる人材を育成する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際社会学特論	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-新垣 誠	1年	makoto@ocjc.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>国際社会に山積する問題を社会学の観点から見つめてみると、地域社会との関連性が見えてくる。目まぐるしく変化する東アジア情勢の中であって沖縄もその例に漏れない。難民や労働移民などの人口移動が近代国民国家にどのような影響を及ぼしてきたのか。これからの多文化共生社会の可能性を、沖縄を通して考える。</p>	<p>沖縄を取り巻く国際情勢は、日夜激しく変化している。国際テロリズムや難民の問題は、決して対岸の火事ではなく、私たち一人ひとりが自身の課題として受け止める必要がある。そのためには、どのような理論や知識、視点が重要となってくるのだろうか。その答えを共に見つけよう。</p>
到達目標	<p>①アメリカの対中東政策や新世界秩序の歴史を理解する。②それを背景として、現在アラブ諸国で起こっている様々な現象（「アラブの春」、シリア難民、イスラミックステイトなど）について分析、自らの意見を述べるようになる。③沖縄における多文化共生の実情や日本の難民受け入れ、外国人労働者の現状について概説できるようになる。④沖縄移民の歴史を理解し、その現状を説明できるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、グローバリゼーションとは	グローバル化の定義を調べる。
	2	近代における人口移動	沖縄移民について調べる。
	3	沖縄の労働移民	移民の定義を調べる。
	4	プッシュ・プル要因～労働市場と移民政策	労働移民の歴史を調べる。
	5	ホスト国での移民コミュニティ	労働移民の歴史を調べる。
	6	近代国家とマイノリティー	マイノリティーの定義を調べる。
	7	人種・民族・エスニシティ	エスニシティの定義を調べる。
	8	近代国民国家とアイデンティティ	アイデンティティの定義を調べる。
	9	「世界のウチナーンチュ・ネットワーク」	沖縄移民の歴史を調べる。
	10	アメリカと移民の歴史	アメリカ移民の歴史を調べる。
	11	アメリカの中東政策	米中東関係について調べる。
	12	ヨーロッパにおける植民地主義と移民問題	植民地主義について調べる。
	13	シリア難民とイスラムフォビア	シリア難民について調べる。
14	国際テロリズム	国際テロについて調べる。	
15	沖縄そして地球社会における多文化共生とは	学びの総括をする。	
16			
テキスト・参考文献・資料など	特定の教科書は使用せず、課題としてプリントや資料を、担当教員がそのつど準備する。		
学びの手立て	履修の心構えとして、積極的に授業に参加しディスカッションを行うこと。学びを深めるために、毎回与えられた課題を予習し、授業内でのディスカッションに備えること。		
評価	ディスカッションにおけるパフォーマンス50%、期末レポート50%（ディスカッションにおいては、あらかじめ読んできた課題の理解度と、理論的に議論を構築できるか、質問に適切に答えられるか、批判的思考に基づいて意見を述べることができるか、などを評価する。期末レポートにおいては、テーマの理解度と批判的思考能力、意見のオリジナリティを評価する。）		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	学んだことをもとに、多文化共生社会実現に向けてのアクションを起こすことを視野に入れて欲しい。地域行政への政策提言を行ったり、グローバル化を意識した上で自らのライフスタイルを見直すことも期待する。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会学研究法特論	前期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	1年	講義終了後またはメール等で問い合わせください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、社会調査に基づいた研究テーマを有する大学院生が社会調査の企画と設計、調査の実施、分析・集計に関する知識と技能を実践的に習得することを目的とするものである。とくに、社会調査の技法に関する初歩から、研究テーマと方法論との論理構成上の積み上げ、さらに社会調査の実践等に関して指導していくものとする。調査方法論の基礎や調査倫理はもちろんのこと、質的調査の技法</p>	<p>学部で学んだ社会調査法を修士論文レベルで考え、使用し、マスターするための科目です。本科目は専門社会調査士資格の認定科目です。資格取得を目指す大学院生は、必ず履修してください。</p>
到達目標	社会調査の基本的な知識と技能を修士論文に使用できるようにマスターする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	社会調査の初歩（社会調査の企画・設計に向けたオリエンテーション）	社会調査の種類について調べる
	2	社会調査と調査倫理	調査の倫理的問題の事例を調べる
	3	研究方法とデータ収集法との論理的関係（個別具体的テーマから概念構成と仮説提示の論理へ）	修士論文の論理展開を考える
	4	社会調査の入口（学術情報ネットワークの活用術、CiNii等）	学術情報の検索、収集の実践
	5	社会調査の種類—質的調査①（参与観察法と非参与観察法）	参与観察法の事例を調べる
	6	社会調査の種類—質的調査②（ドキュメント分析と生活史法）	ドキュメント分析の事例を調べる
	7	社会調査の実践I—質的調査の実践（個別テーマに則し質的調査を用いてデータ収集を実践する）	論文での質的調査の可能性を考える
	8	社会調査の種類—量的調査①（概念構成および仮説提示から変数構築に向けて）	論文研究におけるキー概念の構築
	9	社会調査の種類—量的調査②（調査票の作成方法：ワーディング等の基本ルール）	調査票作成の実践
	10	社会調査の種類—量的調査③（対象者・フィールドの選定法、およびサンプリングの理論と技法）	サンプリングの実践
	11	社会調査の実践II—量的調査の実践（個別テーマに則し簡単な調査票調査の実践）	調査票の事例を集める作業
	12	量的データの整理①（エディティング、コーディング、データクリーニング）	量的データ処理の基本を実践
	13	量的データの整理②（フィールドノート作成、コードブック作成）	フィールドノートの事例を調べる
14	量的分析とグラフ作成（標本誤差と簡単な検定法、およびSPSS等のPC活用術）	量的データ処理の応用	
15	まとめとふりかえり（量的調査の報告レポート、および質的・量的調査に関する総合的なまとめ）	修士論文の方法を確立する	
16	補習	ふりかえりと修士論文指導	
テキスト・参考文献・資料など	テキスト・参考文献・資料など 大谷信介他編著、『社会調査へのアプローチ—論理と方法—』（第2版）、ミネルヴァ書房、2005年。 適宜紹介する。		
学びの手立て	大学院教育の目標である修士論文の調査研究を前提とした講義になる。研究テーマの具体的な論理展開の参考に するように心がけてください。		
評価	提出物（論文・レポートなど）、平常点（出席回数、発表やディスカッションへの取り組み姿勢）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 比較社会文化特論 I
-------	---------------------------



※ポリシーとの関連性

本授業は専門社会調査士資格取得のための科目であり、「多変量解析に関する演習(実習)科目」に該当します。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会統計学特論	後期	月6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮平 隆央	1年	ptt505@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>社会学的な研究で用いられることの多い離散データ(クロス集計表や2値データ)の分析法を中心に、代表的な多変量解析法を学びます。複数の変数の因果関係やデータの構造を分析し、仮説に対する結論を導き出す方法として様々な多変量解析法が開発されています。講義では実際にデータを加工します。到達目標:社会現象等に関する概念モデルの計量的分析法を習得することを目的とします。</p>	<p>多変量解析法による仮説検証の醍醐味を味わい、分析の面白さや視野の広がりを体感しましょう。</p>
到達目標	<p>授業は次の3ステップを経て、計量モデルを用いた分析法を学び、コンピュータを用いて実際に分析することのできる能力を習得します。1)多変量解析を学ぶために、数理統計学の理論的基礎が理解できること。統計パッケージソフト(SPSS)を用いてデータを処理しながら統計の基礎を復習します。2)各々の多変量解析の特性と利用上の留意点が理解できること。社会調査データを用いて分析実習を行います。SPSSによる分析手順と結果の解釈法、分析結果の記述方法を実践的に学びます。3)最後に、履修生の研究テーマに関する先行研究のなかから、授業で紹介した多変量解析法を用いた実証的研究を選定し、論文の読解を行います。仮説の構築、適切なデータ処理、結果の記述や考察までの「データ分析の流れ」が理解できるようになります。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	データの種類と多変量解析法の使い分け、統計パッケージソフトの基本的操作	テキスト等の通読
	2	同上	前回講義の復習
	3	多変量データ行列と基本統計量(分散と共分散)、因果と相関の違い	テキスト等の通読
	4	同上	前回講義の復習
	5	推定と仮説検定、サンプルと母集団について	PCによるデータ加工の復習
	6	クロス表の分析(1)独立性の検定	同上
	7	クロス表の分析(2)多重クロス表のログリニア分析	同上
	8	分散分析(1)平均と分散、交互作用	同上
	9	分散分析(2)2因子の相互作用、一般線形モデルとは	同上
	10	重回帰分析(1)回帰分析の基本、モデルの評価	同上
	11	重回帰分析(2)回帰モデルの比較検討、分析時の注意点、結果の記述方法(パス図)	同上
	12	回帰分析の応用-独立変数に質的変数を含んだ回帰分析	同上
	13	ロジスティック回帰分析(1)ロジット、係数の推定と検定、モデルの評価と解釈	同上
	14	ロジスティック回帰分析(2)モデルの比較検討、分析時の注意点	同上
15	多変量解析法を用いた原著論文の読解、期末レポート課題の発表	同上	
16			

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書は、履修生の学習歴を聞いてから選定します。また、分析に必要なデータや操作マニュアルを、電子ファイルで配布します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○太郎丸博 「人文科学 カテゴリカルデータ解析」ナカニシヤ出版</li> <li>○村瀬洋一ほか共編「SPSSによる多変量解析」オーム社</li> <li>○岩井紀子ほか「調査データ分析の基礎:JGSSデータとオンライン集計の活用」有斐閣</li> <li>○数理社会学会 監修 「社会の見方、測り方:計量社会学への招待」勁草書房</li> </ul>
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)第1回目の授業で受講生の関心などを共有し、教科書や学習内容を決定するので、必ず出席してください。</li> <li>2)分析ソフトを用いた統計解析という専門性を修得するには、学習の積み重ねが必要です。授業はすべて分析実習をとまなうので、できるだけ欠席はしないこと。</li> <li>3)Excelで集計表を作成した経験があることが望ましい。高度な数学知識がなくともよい。意欲と関心を持って最後まで取り組める人を歓迎します。</li> </ol>
-------	--

学びの実践	<p>評価</p> <p>平常点:30%、宿題の提出:30%、期末レポート:40%</p> <p>平常点:毎講義でのコメントペーパー提出 宿題の提出:講義中で課題を指示する 期末レポート:講義中で説明する</p>
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	植民地社会特論 I	前期	月 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	1 年	研究室 (5434)、またはfujinami@oki.u-tokyo.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>南島地域には植民地経験を有する社会が数多く存在するが、当該社会を理解するには被統治者側から析出される問題点の理解に加えて、植民地社会の構造を創出した統治者側の意図を理解することも不可欠である。そこで、本講義では、近年の帝国史研究の成果と植民地統治者が作成した行政文書の読解を通じて、統治者側からの観点に基づく植民地社会の在り方を理解することを目的とする。</p>	<p>本講義は、論文の要旨報告と史料読解が中心となります。いずれも、受講生の積極的な取り組みが不可欠です。</p>
到達目標	<p>(1) 帝国史研究に関する最新の研究成果を正確に読解し、その要旨を報告することができる。                  (2) 研究史の整理に相応しい報告レジュメを作成することができる。                  (3) 歴史史料を正確に読解し、当該史料の歴史的意義を理解することができる。                  (4) 他者の報告をしっかりと理解し、学問的に有意義な質問やコメントを適切におこなうことができる。""</p>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	ガイダンス：講義に関するルールを理解、報告順の確定	シラバスの精読	
	2	先行研究要旨報告①：帝国主義史研究	配布資料の精読／報告・質問の準備	
	3	先行研究要旨報告②：アジアの植民地①	配布資料の精読／報告・質問の準備	
	4	先行研究要旨報告③：アジアの植民地②	配布資料の精読／報告・質問の準備	
	5	先行研究要旨報告④：植民地統治体制①	配布資料の精読／報告・質問の準備	
	6	先行研究要旨報告⑤：植民地統治体制②	配布資料の精読／報告・質問の準備	
	7	先行研究要旨報告⑥：植民地統治体制③	配布資料の精読／報告・質問の準備	
	8	先行研究要旨報告⑦：学問・文化と植民地①	配布資料の精読／報告・質問の準備	
9	先行研究要旨報告⑧：学問・文化と植民地②	配布資料の精読／報告・質問の準備		
10	先行研究要旨報告⑨：学問・文化と植民地③	配布資料の精読／報告・質問の準備		
11	植民地関係史料の輪読①：台湾総督府公文類纂①	配布史料の読解		
12	植民地関係史料の輪読②：台湾総督府公文類纂②	配布史料の読解		
13	植民地関係史料の輪読③：外務省外交記録①	配布史料の読解		
14	植民地関係史料の輪読④：外務省外交記録②	配布史料の読解		
15	植民地関係史料の輪読⑤：公文録	配布史料の読解		
16	まとめ	史料読解レポートの作成		
実践	テキスト・参考文献・資料など	<p>(1) テキスト 『岩波講座 近代日本と植民地』（全8巻）                  (2) 参考文献 読解論文掲載の各文献                  (3) 資料 輪読する歴史史料は印刷の上、配布する</p>		
学びの手立て	<p>(1) 履修の心構え                  ① 専門論文の要旨報告では、不明な語句、人名等を予め確認することは当然だが、執筆者の学問的な立場等もできるだけ確認した上で報告することが望ましい。                  ② 歴史史料の輪読に際しては、史料読解の未経験者にも配慮した講義運営をおこなう予定でいる。                  (2) 学びを深めるために                  台湾、朝鮮半島、東南アジア等の歴史に関する基礎的な事項を予め確認しておくことが望ましい。</p>			
評価	<p>到達目標 (1) の評価：要旨報告の内容 (40%)                  到達目標 (2) の評価：報告用レジュメの内容 (20%)                  到達目標 (3) の評価：史料読解レポートの内容 (20%)                  到達目標 (4) の評価：講義時における質問やコメントの内容 (20%)</p>			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>南島社会文化領域の他の科目を履修した上で、特殊研究に結び付けて欲しい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

南島の民俗文化を理解するための地理学的方法を習得し、それを生かした地理教材分析の意義と方法を学ぶ。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地理教育学特論	前期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	1年	sakiham@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講は、南島地域における地理的特性を学びながら、地理教育に必須の地図資料の扱い方やフィールドワークの方法など、地理的技能を高める講義を行う。とくに前近代から現代まで作成された地図資料の性格を吟味しながら、地理教材作成に繋げる方法を検討する。	南島の民俗文化について関心があり、それを地理的特性に関係させて理解したいと考える学生の受講を歓迎します。また高等学校教諭としての現場経験を活かして、社会科・地理教育の方法を、現場で応用できる講義を行います。
到達目標	①地理学の方法と地理教育の関係について、南島地域の地理的特性を学ぶ中で理解を深める。②地図資料の扱い方、フィールドワークの方法などの地理的技能を高めることで、南島地域における地理教材作成の方法を習得する。③南島地域における民俗文化を理解するための学びを身につける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読む
	2	地理学と地理教育の関係	配布資料の精読
	3	地理学の方法と地理教育の関係	配布資料の精読
	4	系統地理学と地誌学(1)－沖縄本島を事例に－	配布資料の精読
	5	系統地理学と地誌学(2)－宮古諸島を事例に－	配布資料の精読
	6	系統地理学と地誌学(3)－八重山諸島を事例に－	配布資料の精読
	7	地図の読解と利用方法(1)－現代地形図－	配布資料の精読
8	地図の読解と利用方法(2)－大正期地形図－	配布資料の精読	
9	地図の読解と利用方法(3)－地籍図・国土基本図－	配布資料の精読	
10	地図の読解と利用方法(4)－琉球国絵図－	配布資料の精読	
11	地理的技能と地理教育(1)－空中写真の判読－	配布資料の精読	
12	地理的技能と地理教育(2)－景観分析の方法－	配布資料の精読	
13	地理的技能と地理教育(3)－本部半島のフィールドワーク－	配布資料の精読	
14	南島における地理教育の方法	配布資料の精読	
15	南島における地理教育の実践	配布資料の精読	
16	期末課題	講義全体の復習	
実践	テキスト・参考文献・資料など	特定のテキスト・資料などは指定しないが、講義中に参考文献を紹介する。	
学びの手立て	日頃から南島（沖縄）に関する基礎的な文献を読んでおくことと、授業では毎回、配布される資料を読んで参加すること。		
評価	講義の中で提示した課題（50%）や地理教材のレポート（50%）により評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 南島地理学特論Ⅰ・Ⅱ
-------	---------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島芸能特論 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-狩俣 恵一	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など

学びの実践	学びの手立て

学びの実践	評価

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島芸能特論Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-狩俣 恵一	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	
-------	--

学びの実践	
-------	--

学びの実践	
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島言語文化特殊研究 I	通年	火 5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	1年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球列島で話されている琉球語諸方言の研究に取り組み、その構造を明らかにする。琉球語研究が琉球文学の読解に結びつくことにも注意をはらう。さらに、危機言語とされる琉球語の再生のために必要な試みについて考える。	メッセージ 院生は各人のテーマに従い、修士論文の枠組を構築する。担当教員は、適宜、修論指導を行う。なお、機会をみて、方言調査等のフィールドワークを行う予定である。
	到達目標 琉球語諸方言を調査・研究することができ、それを基盤として学术论文が書けるようになる。	

学びの準備	到達目標 琉球語諸方言を調査・研究することができ、それを基盤として学术论文が書けるようになる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	琉球語諸方言の概説	レジュメの作成・準備
	2	琉球語諸方言の概説	レジュメの作成・準備
	3	琉球語諸方言の概説	レジュメの作成・準備
	4	琉球語諸方言の概説	レジュメの作成・準備
	5	琉球語諸方言の研究史	レジュメの作成・準備
	6	琉球語諸方言の研究史	レジュメの作成・準備
	7	琉球語諸方言の研究史	レジュメの作成・準備
	8	琉球語諸方言の研究史	レジュメの作成・準備
	9	琉球語諸方言と琉球文学	レジュメの作成・準備
	10	琉球語諸方言と琉球文学	レジュメの作成・準備
	11	琉球語諸方言と琉球文学	レジュメの作成・準備
	12	琉球語諸方言と琉球文学	レジュメの作成・準備
	13	危機言語とその再活性化	レジュメの作成・準備
	14	危機言語とその再活性化	レジュメの作成・準備
	15	危機言語とその再活性化	レジュメの作成・準備
	16	危機言語とその再活性化	レジュメの作成・準備
	17	方言調査のフィールドワーク	レジュメの作成・準備
	18	方言調査のフィールドワーク	レジュメの作成・準備
	19	方言調査のフィールドワーク	レジュメの作成・準備
	20	方言調査のフィールドワーク	レジュメの作成・準備
	21	フィールドワークのまとめ	レジュメの作成・準備
	22	フィールドワークのまとめ	レジュメの作成・準備
	23	フィールドワークのまとめ	レジュメの作成・準備
	24	フィールドワークのまとめ	レジュメの作成・準備
	25	琉球語諸方言についての研究発表および質疑応答	レジュメの作成・準備
	26	琉球語諸方言についての研究発表および質疑応答	レジュメの作成・準備
	27	琉球語諸方言についての研究発表および質疑応答	レジュメの作成・準備
	28	琉球語諸方言についての研究発表および質疑応答	レジュメの作成・準備
	29	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成・準備
	30	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成・準備
31	修士論文についての発表および質疑応答	総括	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>『沖縄語辞典』（国立国語研究所[編]、1963年、財務省印刷局）。</p> <p>『沖縄古語大辞典』（沖縄古語大辞典編集委員会[編]、1995年、角川書店）。</p> <p>その他、適宜、指示する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>毎回、レジユメを作成、準備すること。特例授業か対面授業かはその都度指示する。</p>
	<p>評価</p> <p>提出された研究レポートを評価する（50%）。</p> <p>発表者側の発表内容、聴き手側の質問・コメント、授業への積極的な関わり方を評価する（50%）。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>南島言語文化特殊研究Ⅱ、南島文学特論ⅡA、ⅡB。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島言語文化特殊研究Ⅱ	通年	火5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	2年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球列島で話されている琉球語諸方言の研究に取り組み、その構造を明らかにする。琉球語研究が琉球文学の読解に結びつくことにも注意をはらう。さらに、危機言語とされる琉球語の再生のために必要な試みについて考える。	メッセージ Ⅱ（修士2年以上）院生は、修士論文の完成に向けて取り組む。担当教員は、適宜、修論指導を行う。なお、機会をみて、方言調査等のフィールドワークを行う予定である。
	到達目標 琉球語諸方言を調査・研究することができ、それを基盤として学術論文が書けるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	琉球語諸方言の概説	レジュメの準備、作成
	2	琉球語諸方言の概説	レジュメの準備、作成
	3	琉球語諸方言の研究史	レジュメの準備、作成
	4	琉球語諸方言の研究史	レジュメの作成、準備
	5	琉球語諸方言と琉球文学	レジュメの作成、準備
	6	琉球語諸方言と琉球文学	レジュメの作成、準備
	7	危機言語とその再活性化	レジュメの作成、準備
	8	危機言語とその再活性化	レジュメの作成、準備
	9	方言調査のフィールドワーク	レジュメの作成、準備
	10	方言調査のフィールドワーク	レジュメの作成、準備
	11	フィールドワークのまとめ	レジュメの作成、準備
	12	フィールドワークのまとめ	レジュメの作成、準備
	13	琉球語諸方言についての研究発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	14	琉球語諸方言についての研究発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	15	修士論文についての参考文献の整理	レジュメの作成、準備
	16	修士論文についての参考文献の整理	レジュメの作成、準備
	17	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	18	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	19	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	20	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	21	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	22	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	23	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	24	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	25	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	26	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	27	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	28	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	29	修士論文についての発表および質疑応答	修士論文のまとめ
30	修士論文のまとめ	修士論文のまとめ	
31	修士論文の製本・提出	修士論文の修筆	



学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>『沖縄語辞典』（国立国語研究所[編]、1963年、財務省印刷局）。</p> <p>『沖縄古語大辞典』（沖縄古語大辞典編集委員会[編]、1995年、角川書店）。</p> <p>その他、適宜、指示する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>毎回、レジュメを作成、準備すること。特例授業か対授業かはその都度指示する。</p>
	<p>評価</p> <p>提出された修士論文を評価する（80%）。</p> <p>発表者側の発表内容、聴き手側の質問・コメント、授業への積極的な関わり方を評価する（20%）。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>修士論文中間発表会、修士論文最終発表会、学会での発表。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島史学特論 I A	前期	月 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤 秋人	1 年	水曜日 2 限のオフィスアワーに研究室（5 4 2 2）で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	1 8 世紀前半の那覇や那覇港をめぐる状況に着目し、近世琉球史像の再構築をねらいとします。主な題材として、那覇四町を管轄した親見世の業務記録である「乾隆元年 親見世日記」（『国立台湾大学図書館典蔵 琉球関係史料集成』第 1 巻）を用います。	学内外の琉球・沖縄史に関わる研究会やシンポジウムに参加して雰囲気に触れることは研究者としての財産になります。積極的に情報を収集してください。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 9 3 0 年代から現在にいたる近世の那覇関係史料の伝来について理解できるようになる。</li> <li>・ 1 8 世紀前半の那覇や那覇港の状況と近世琉球の全体史を関連づけて理解できるようになる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション、「親見世日記」と参考文献の紹介	
	2	台湾大学琉球関係古文書と「親見世日記」	
	3	古琉球の那覇と那覇港	
	4	近世琉球の那覇と那覇港	
	5	「親見世日記」の検討①（受講生へ読み下しを割り当て）	
	6	「親見世日記」の検討②（同上）	
	7	「親見世日記」の検討③（同上）	
	8	「親見世日記」の検討④（同上）	
	9	「親見世日記」の検討⑤（同上）	
	10	「親見世日記」の検討⑥（同上）	
	11	「親見世日記」の検討⑦（同上）	
	12	「親見世日記」の検討⑧（同上）	
	13	「親見世日記」の検討⑨（同上）	
14	受講生によるテーマに沿った報告と討議①		
15	受講生によるテーマに沿った報告と討議②		
16			
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト・資料】初回の講義で「親見世日記」のコピーを配布します。図表などの参考資料は適宜配布します。</p> <p>【参考文献】『那覇市史』資料篇第 1 巻 9 近世那覇関係資料（古文書編） 『那覇市史』資料篇第 1 巻 1 2 近世資料補遺・雑纂</p>		
学びの手立て	沖縄県内の身近な市町村史の文献資料集に収録されている各史料の所蔵機関を確認してみてください。史料の伝来と関わります。		
評価	史料の検討に取り組む姿勢（60%）と報告の内容（40%）によって総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「南島史学特論 I B」も受講してくれることを希望します。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島史学特論 I B	後期	木 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤 秋人	1 年	水曜日 2 限のオフィスアワーに研究室（5 4 2 2）で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 18世紀前半の那覇や那覇港をめぐる状況に着目し、近世琉球史像の再構築をねらいとします。前期に引き続き、主な題材として、那覇四町を管轄した親見世の業務記録である「乾隆元年 親見世日記」（『国立台湾大学図書館典蔵 琉球関係史料集成』第1巻）を用います。	メッセージ 学内外の琉球・沖縄史に関する研究会やシンポジウムに参加して雰囲気に触れることは研究者としての財産になります。積極的に情報を収集してください。
	到達目標 ・1930年代から現在にいたる近世の那覇関係史料の伝来について理解できるようになる。 ・18世紀前半の那覇や那覇港の状況と近世琉球の全体史を関連づけて理解できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション、「親見世日記」と参考文献の紹介	
	2	台湾大学琉球関係古文書と「親見世日記」	
	3	古琉球の那覇と那覇港	
	4	近世琉球の那覇と那覇港	
	5	「親見世日記」の検討①（受講生へ読み下しを割り当て）	
	6	「親見世日記」の検討②（同上）	
	7	「親見世日記」の検討③（同上）	
	8	「親見世日記」の検討④（同上）	
9	「親見世日記」の検討⑤（同上）		
10	「親見世日記」の検討⑥（同上）		
11	「親見世日記」の検討⑦（同上）		
12	「親見世日記」の検討⑧（同上）		
13	「親見世日記」の検討⑨（同上）		
14	受講生によるテーマに沿った報告と討議①		
15	受講生によるテーマに沿った報告と討議②		
16			
実践	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト・資料】初回の講義で前期に読んだ続きの部分から「親見世日記」のコピーを配布します。図表などの参考資料は適宜配布します。 【参考文献】『那覇市史』資料篇第1巻9 近世那覇関係資料（古文書編） 『那覇市史』資料篇第1巻12 近世資料補遺・雑纂		
	学びの手立て 沖縄県内の身近な市町村史の文献資料集に収録されている各史料の所蔵機関を確認してみてください。史料の伝来と関わります。		
	評価 史料の検討に取り組む姿勢（60%）と報告の内容（40%）によって総合的に評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「南島史学特論 I A」も受講してくれることを希望します。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島社会特論 I	前期	火 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	秋山 道宏	1年	オフィスアワーもしくは学内メールにて受けつける。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄戦や原爆をめぐる戦争体験について、社会学（社会科学）の視点からどのようにアプローチが可能かを、文献の輪読を通して学んでいく。</p>	<p>戦争体験を語ることは、いまでは一般的なことのように思われているが、戦後の歴史に根ざした営み（実践）であると言える。その歴史性や語ることの「痛み」への想像力も働かせながら、学んでいってほしい。</p>
到達目標	<p>(1) 社会学（社会科学）に依拠し、さまざまな戦争体験を捉えるための理論や視座について学ぶ。                  (2) 文献の輪読と議論を通して、自らの問題関心を研究課題としてまとめあげる。                  (3) 文献の精読を通して、資料・文献の読解方法と、読解した資料・文献に基づいて論理的に文章を組み立てていく力を養う。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション（講義テーマの概説および評価方法等の説明）	シラバスをよく読んでおくこと
	2	受講生の問題関心・研究計画の報告①	問題関心・研究計画をまとめる
	3	受講生の問題関心・研究計画の報告②	問題関心・研究計画をまとめる
	4	沖縄戦体験の戦後史①軍事・軍隊の視点からの沖縄戦像	対象文献と関連資料の精読
	5	沖縄戦体験の戦後史②1960年代の「語り」への着目と住民視点への転換	対象文献と関連資料の精読
	6	沖縄戦体験の戦後史③日本復帰後の沖縄戦像の刷新	対象文献と関連資料の精読
	7	原爆体験を捉える視点①石田忠の「反原爆」の思想	対象文献と関連資料の精読
	8	原爆体験を捉える視点②リフトン、米山リサの視点	対象文献と関連資料の精読
	9	原爆体験を捉える視点③原爆体験への新たなアプローチ	対象文献と関連資料の精読
	10	集合的記憶と戦争体験①集合的記憶の理論	対象文献と関連資料の精読
	11	集合的記憶と戦争体験②博物館・資料館の「展示」から浮かびあがる集合的記憶の問題系	対象文献と関連資料の精読
	12	集合的記憶と戦争体験③書物や教科書への記述から浮かびあがる集合的記憶の問題系	対象文献と関連資料の精読
	13	戦争体験とトラウマ①トラウマの理論と戦争体験	対象文献と関連資料の精読
14	戦争体験とトラウマ②沖縄戦、原爆体験とトラウマ	対象文献と関連資料の精読	
15	講義全体のまとめと議論、レポート提出	講義全体の内容についての復習	
16			
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは指定しない。テーマごとに輪読する文献を提示し、必要な場合には関連資料を配布する。                  文献輪読の候補としては、石田忠『反原爆：長崎被爆者の生活史』（未来社、1973年）、石原昌家『虐殺の島：皇軍と臣民の末路』（晩餐社、1978年）、高山真『「被爆者」になる：変容する「わたし」のライフストーリー・インタビュー』（せりか書房、2016年）、根本雅也『ヒロシマ・パラドクス：戦後日本の反核と人道意識』（勉誠出版）、宮地尚子『環状島=トラウマの地政学』（みすず書房、2018年）を挙げておく。</p>		
学びの手立て	<p>毎回の講義の復習によって、輪読した文献内容の理解を深めるとともに、関連する研究論文や文献についても自主的に収集・読解し、自身の研究テーマを練り上げていってほしい。</p>		
評価	<p>平常点30%、報告内容（文献輪読）30%、学期末レポート40%で評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目                  社会文化領域を中心とする関連科目</p>
-------	--

科目基本情報	科目名 南島社会特論Ⅱ	期別 後期	曜日・時限 火6	単位 2
	担当者 秋山 道宏	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ	
			オフィスアワーもしくは学内メールにて受けつける。	

学びの準備	ねらい 日本と米国による統治（統合）のもとに置かれてきた沖縄の近現代史を対象とし、社会学（社会科学）の視点からどのようにアプローチが可能かを、テーマごとの文献の輪読を通して学んでいく。具体的なテーマとしては、沖縄戦における戦争体験と、それに続く米国による占領体験を扱い、それらの体験がどのように記憶・継承されてきたのかについて検討していく。	メッセージ 沖縄の近現代の歴史は、ややもすると「琉球処分」や「米軍基地問題」といった「枠にはめられたイメージ」で捉えられがちである。そのイメージを崩しながら、現在の沖縄社会を形づくってきた豊富な経験について考えていってほしい。
	到達目標 (1) 近現代における沖縄の歴史の具体像を理解し、現代の沖縄社会の特徴と抱えている課題について歴史的・批判的に捉える視点を学ぶ。 (2) 文献の輪読と議論を通して、自らの問題関心を研究課題としてまとめあげる。 (3) 文献の精読を通して、資料・文献の読解方法と、読解した資料・文献に基づいて論理的に文章を組み立てていく力を養う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション（講義テーマの概説および評価方法等の説明）	シラバスをよく読んでおくこと
	2	近代沖縄と沖縄戦①戦前沖縄社会と軍事化	対象文献と関連資料の精読
	3	近代沖縄と沖縄戦②沖縄戦と軍隊・軍事の論理	対象文献と関連資料の精読
	4	近代沖縄と沖縄戦③沖縄戦と基地社会のはじまり	対象文献と関連資料の精読
	5	生活・生命の視点からみる占領体験①戦後占領と住民の生活	対象文献と関連資料の精読
	6	生活・生命の視点からみる占領体験②島ぐるみ闘争の土地闘争としての意味	対象文献と関連資料の精読
	7	生活・生命の視点からみる占領体験③ベトナム戦争と沖縄	対象文献と関連資料の精読
	8	生活・生命の視点からみる占領体験④B52撤去運動から2・4ゼネストへ	対象文献と関連資料の精読
9	交錯する戦争体験と占領体験：体験記録運動から考える①戦争体験の語りと軍隊・軍事の論理	対象文献と関連資料の精読	
10	交錯する戦争体験と占領体験：体験記録運動から考える②体験記録運動の契機と展開	対象文献と関連資料の精読	
11	交錯する戦争体験と占領体験：体験記録運動から考える③占領体験から想起される戦争体験	対象文献と関連資料の精読	
12	日本復帰後も継続する占領体験①米軍基地の固定化と住民の生活	対象文献と関連資料の精読	
13	日本復帰後も継続する占領体験②「1995年」と「9. 11」以後を考える	対象文献と関連資料の精読	
14	日本復帰後も継続する占領体験③「オール沖縄」「島ぐるみ」の運動を考える	対象文献と関連資料の精読	
15	講義全体のまとめと議論、レポート提出	講義全体の内容についての復習	
16			
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。テーマごとに輪読する文献を提示し、必要な場合には関連資料を配布する。講義の前提となる参考文献として、屋嘉比収他編『沖縄・問いを立てる1 沖縄に向き合う：まなざしと方法』（社会評論社、2008年）、屋嘉比収『沖縄戦、米軍占領史を学びなおす：記憶をいかに継承するか』（世織書房、2009年）を挙げておく。『沖縄・問いを立てる』のシリーズ全6巻は、沖縄の近現代史に関する幅広いテーマを扱っているため、受講に向けて目を通しておくことをおすすめする。		
	学びの手立て 毎回の講義の復習によって、輪読した文献内容の理解を深めるとともに、関連する研究論文や文献についても自主的に収集・読解し、自身の研究テーマを練り上げていってほしい。		
	評価 平常点30%、報告内容（文献輪読）30%、学期末レポート40%で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会文化領域を中心とする関連科目
-------	---------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島社会文化特殊研究 I	通年	月 4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
-------	----------------

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価
-------	----

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島社会文化特殊研究 I	通年	月 4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	1年	研究室 (5434)、またはfujinami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本ゼミは、社会文化領域で修士論文を執筆することを指す学生を対象としている。先行研究の整理、学説史の概観、関係史資料の読解、調査計画の作成、個人調査の実施と報告、修士論文の構想策定と概要執筆等をおこなうことを通じて、修士論文執筆に向けた準備作業を実施することをねらいとする。</p>	<p>修士論文の作成は時間、根気と継続力が求められる。そのため、長期的、計画的に研究活動を推進することのできる実行力を身につけるとともに、積極的な対話や議論を通じた専門分野の深い修得に努めてもらいたい。</p>
到達目標	<p>(1) 自らの修論テーマに関する先行研究を整理し、学説史をまとめることができる。                  (2) 自らの修論テーマに関する資料を集め、正確に読解することができる。                  (3) 自らの修論テーマに関する調査計画を策定し、基礎調査を実施することができる。                  (4) 自らの修論テーマに関する構想を策定し、その概要を執筆することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	04/12 ガイダンス	大学院履修ガイド、シラバスの読解
	2	04/19 卒業論文の整理と修論仮テーマの策定 (1)	卒業論文の振り返り報告の準備
	3	04/26 卒業論文の整理と修論仮テーマの策定 (2)	卒業論文の振り返り報告の準備
	4	05/10 先行研究に関する調査 (1)	論文リストの作成、論文の収集
	5	05/17 先行研究に関する調査 (2)	論文リストの作成、論文の収集
	6	05/24 学説史の整理・報告 (1)	論文の読解、報告準備
	7	05/31 学説史の整理・報告 (2)	論文の読解、報告準備
	8	06/07 学説史の整理・報告 (3)	論文の読解、報告準備
	9	06/14 学説史の整理・報告 (4)	論文の読解、報告準備
	10	06/21 関係史資料に関する報告 (1)	史資料の分析・読解、報告準備
	11	06/28 関係史資料に関する報告 (2)	史資料の分析・読解、報告準備
	12	07/05 関係史資料に関する報告 (3)	史資料の分析・読解、報告準備
	13	07/12 関係史資料に関する報告 (4)	史資料の分析・読解、報告準備
	14	07/19 調査計画の策定・報告 (1)	報告準備
	15	07/16 調査計画の策定・報告 (2)	報告準備
	16	09/20 後期ガイダンス	報告準備
	17	10/04 調査報告 (1)	報告準備
	18	10/11 調査報告 (2)	報告準備
	19	10/18 先行研究の補充調査	論文リストの作成、論文の収集
	20	10/25 学説史の補充報告 (1)	論文の読解、報告準備
	21	11/01 学説史の補充報告 (2)	論文の読解、報告準備
	22	11/08 関係史資料の補充調査	史資料の調査・読解、報告準備
	23	11/15 関係史資料の補充調査 (1)	報告準備
	24	11/22 関係史資料の補充調査 (2)	報告準備
	25	12/06 修論構想報告 (1)	報告準備
	26	12/13 修論構想報告 (2)	報告準備
	27	12/20 修論構想報告 (3)	報告準備
	28	12/27 修論概要報告 (1)	修論概要の作成
	29	01/17 修論概要報告 (2)	修論概要の作成
30	01/24 まとめ	春期休業の調査計画の作成	
31			

学	<p>テキスト・参考文献・資料など          受講生の修論テーマや興味・関心に応じて、講義において指示する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て          受講生には修士論文を作成するための真摯な姿勢をもって受講してもらいたい。修士論文は学術論文のスタートともなり、大学院終了後のキャリアにも影響を有することになる重要なものである。そのため、狭い意味での自らの専門だけでなく、南島社会に関する広範な研究成果を積極的に吸収し、関連する史資料を多面的に考察できるような能力を修得してもらいたい。</p>
	<p>評価          到達目標（１）の評価：学説史に関する報告の内容（30%）          到達目標（２）の評価：関係史資料に関する報告の内容（20%）          到達目標（３）の評価：調査報告の内容（20%）          到達目標（４）の評価：修論構想と執筆概要の内容（30%）</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目          南島社会特論Ⅰ・Ⅱ、植民地社会特論Ⅰ・Ⅱ、社会学研究法特論、社会統計学特論、国際社会学特論、比較社会文化特論Ⅰ・Ⅱなど。</p>



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島先史文化特殊研究Ⅱ	通年	土2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上原 静	2年	研究室5-417 E-mail sizuka@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球列島に形成された先史、原史文化の諸要素を個々に取りあげ、周辺地域との交流がどの様に関与したかを考える。その際には隣接の科学の多様な研究成果をも取り入れることとする。	メッセージ 自らの課題を公の場で積極的に発表し、多くの意見を聞き精度を高めるようになってほしい。
	到達目標 研究史の理解、立論の合理性と適格性、実証の正確性を自己のものとする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	参考文献、資料を精読する。
	2	修士論文のテーマ・課題の確定	参考文献、資料を精読する。
	3	修士論文の章立て確定	参考文献、資料を精読する。
	4	関係論文リストの作成1	参考文献、資料を精読する。
	5	関係論文リストの作成2	参考文献、資料を精読する。
	6	関係論文の購読1	参考文献、資料を精読する。
	7	関係論文の購読2	参考文献、資料を精読する。
	8	関係資料の分析1	参考文献、資料を精読する。
	9	関係資料の分析2	参考文献、資料を精読する。
	10	修士論文の中間報告 序章	参考文献、資料を精読する。
	11	修士論文の中間報告 第1章の内容	参考文献、資料を精読する。
	12	修士論文の中間報告 第1章の課題	参考文献、資料を精読する。
	13	修士論文の中間報告 第2章の内容	参考文献、資料を精読する。
	14	修士論文の中間報告 第2章の課題	参考文献、資料を精読する。
	15	修士論文の中間報告 第3章の内容	参考文献、資料を精読する。
	16	修士論文の中間報告 第3章の課題	参考文献、資料を精読する。
	17	修士論文の中間報告 第4章の内容	参考文献、資料を精読する。
	18	修士論文の中間報告 第4章の課題	参考文献、資料を精読する。
	19	修士論文の中間報告 第5章の内容	参考文献、資料を精読する。
	20	修士論文の中間報告 第5章の課題	参考文献、資料を精読する。
	21	修士論文の中間報告 結語の内容と課題	参考文献、資料を精読する。
	22	修士論文の中間報告 序章の再検討	参考文献、資料を精読する。
	23	修士論文の中間報告 第1章の再検討	参考文献、資料を精読する。
	24	修士論文の中間報告 第2章の再検討	参考文献、資料を精読する。
	25	修士論文の中間報告 第3章の再検討	参考文献、資料を精読する。
	26	修士論文の中間報告 第4章の再検討	参考文献、資料を精読する。
	27	修士論文の中間報告 第5章の再検討	参考文献、資料を精読する。
	28	修士論文の中間報告 結語の再検討	参考文献、資料を精読する。
	29	修士論文の中間報告 脚注などの吟味	参考文献、資料を精読する。
30	テーマの発展性について	参考文献、資料を精読する。	
31	テスト	参考文献、資料を精読する。	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など  講義時に提示する。  随時、講義時に紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て  関連する様々学会、シンポジウムに積極的に参加すること。</p>
	<p>評価  レポート（80％）を提出し、授業における討議（20％）を合わせて評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目  関連科学の社会学、民俗（民族）学、心理学など、関連科学を広く学ぶ。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島先史文化特論Ⅰ	前期	水6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	南島先史文化の貝塚時代後期の研究を紹介する。出土遺物から当時の社会や文化について考える。貝塚時代後期の研究について詳細に説明できるようになる。	発掘調査報告書をたくさん読んでもらいます。実際の発掘調査の現場について紹介し、貝塚時代後期社会について一緒に考える講義を行う。
到達目標	調査報告書を読解し、正確に把握するとともに、立論の合理性、科学的な表現ができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・貝塚時代後期とはどんな時代なのか	配布資料を精読すること
	2	土器編年	配布資料を精読すること
	3	年代観	配布資料を精読すること
	4	遺跡の立地	配布資料を精読すること
	5	奄美と沖縄	配布資料を精読すること
	6	弥生土器と弥生系文物	配布資料を精読すること
	7	貝製腕輪	配布資料を精読すること
	8	貝符、貝札	配布資料を精読すること
	9	貝殻集積遺構	配布資料を精読すること
	10	交易論（1）ゴホウラ・イモガイ	配布資料を精読すること
	11	交易論（2）ヤコウガイ	配布資料を精読すること
	12	沖縄本島の遺跡	配布資料を精読すること
	13	沖縄本島周辺の遺跡	配布資料を精読すること
14	奄美諸島・種子島の遺跡	配布資料を精読すること	
15	まとめ	配布資料を精読すること	
16	期末レポート提出		
テキスト・参考文献・資料など	テキストは指定しない。基本的に講義形式で行う。受講者に課題を課し、発表することを計画する。		
参考文献	『南島貝文化の研究—貝の道の考古学』木下尚子【著】1996年 法政大学出版社		
学びの手立て	履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。 ・出欠確認を毎回厳格に行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前にメールにて連絡すること。 ・課題は必ず発表期日厳守の上必ず取り組むこと。 博物館や各市町村の資料室などを訪ねて資料を見学すること。		
評価	平常点(50%)、期末レポート(50%)で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「南島先史文化特論Ⅱ」「考古学特論Ⅰ・Ⅱ」「南島民俗特論Ⅰ・Ⅱ」「南島地理学特論Ⅰ・Ⅱ」
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島先史文化特論Ⅱ	後期	水6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上原 静	1年	e-mail sizuka@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	琉球列島に展開した先史・原史文化に関して、現在提示されている多様な編年観や議論を取り上げ、その考え方や学問的背景について考える。	自らの研究成果を積極的に発表し、多くの意見を聴き、その研究内容を深める努力を志してほしい。

到達目標	正確な概念把握。立論の合理性と適格性。実証の正確性など科学的な思考を身につける。
------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 修士論文の作成に必要な研究方法、また、他隣接分野への理解と知識の獲得を意識してもらおう。 第1週 講義の趣旨、進め方のガイダンス。 第2週 文化論 第3週 進化論 第4週 三時期法 第5週 哲学史 第6週 認知考古学 第7週 人口論 第8週 分布論 第9週 新石器時代の編年観と概念① 第10週 新石器時代の編年観と概念② 第11週 新石器時代の編年観と概念③ 第12週 原史時代の編年観と概念① 第13週 原史時代の編年観と概念② 第14週 原史時代の編年観と概念③ 第15週 総括 第16週 レポート、試験による評価
	テキスト・参考文献・資料など 適宜指示する。
	学びの手立て 関連する学会、報告会への積極的な参加すること。
	評価 授業における発言、レポート、試験内容により評価。

学びの継続	次のステージ・関連科目 理解した内容の発表。また、その他の科学との関連を試みながら内容を展開する。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島地理学特論 I	前期	木 7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川 護	1年	メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	人文地理学の基礎的な調査方法について学習し、実際の島嶼地域におけるフィールド実習を実施する中で、実践的な調査の企画・設計、調査結果の分析、集計を経験し、自ら調査できる技術習得を目指す。今年度の実習地域としては、次年度に引き続き、沖縄県国頭村を研究対象地域としてとりあげ、そこにおける人々の生業と社会組織、地域経済の振興についての地域調査を予定している。	地理的なものの見方、考え方を取得するように心がけてください。
到達目標	地理的な調査手法、分析、地理情報システム(GIS)の扱い方をマスターしてもらう。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	人文地理学調査入門 地理学調査とは	配布プリントの復習
	2	調査倫理と調査企画・設計(1)	配布プリントの復習
	3	調査企画・設計(2)、仮設構成	配布プリントの復習
	4	調査票の作成(1)	配布プリントの復習
	5	調査票の作成(2)	配布プリントの復習
	6	本島内の地域調査(1) サンプリング、フィールドの選定の実際	配布プリントの復習
	7	本島内の地域調査(2) 実査(1)	調査準備
	8	本島内の地域調査(2) 実査(2)	調査準備
	9	地域調査結果データの整理(1) (エディティング、コーディング)	調査データの整理
	10	地域調査結果データの整理(2) (データクリーニング、フィールドノート作成)	調査データの整理
	11	地域調査結果データの整理(3) (量的分析とグラフ作成)	調査データの整理
	12	地域調査結果データの整理と質的な分析	調査データの整理
	13	報告書作成と地域調査報告会準備 (1)	レポート執筆
14	報告書作成と地域調査報告会準備 (2)	レポート執筆	
15	地域調査報告会	報告会	
16	全体のまとめ		
テキスト・参考文献・資料など	テキスト・参考文献・資料など 毎回、プリントを配布する。 浮田典良『ジオ・パルNEO 地理学便利帳』海青社、2017年。谷 謙二『フリーGISソフト MANDARA10入門』古今書院 2018年、服部兼敏『地域支援のためのコンパクトGIS 地図太郎入門』2古今書院、2013年。 その他、授業の中でその都度紹介する。		
学びの手立て	積み上げ式の授業なので、休まないようにしてください。		
評価	成績は、レポート(5回) 【1回20点×5回=100点】で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 南島地理学特論 II
-------	---------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島地理学特論Ⅱ	後期	木7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川 護	1年	メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	南島地理学Ⅱでは、南島地理学Ⅰを基本として、地理情報システムのしくみとその操作方法について学習する。最終的には、各種分布図が独力で作業できるようになることを目標としている。使用ソフトは「MANDARA」、「カシミール」、「地図太郎」など。	地理的なものの見方、考え方を習得するように心がけてください。
到達目標	地理情報システム(GIS)の基本習得を目指す。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	地理情報システムとは①カシミール活用法	プリントによる復習
	2	地理情報システムとは②カシミール活用法	プリントによる復習
	3	MANDARAの特色と地図データーさまざまな地図の紹介ー	プリントによる復習
	4	MANDARAで地図をつくろう①階級区分図をつくる	プリントによる復習
	5	MANDARAで地図をつくろう②階級区分を考える	プリントによる復習
	6	コンビニエンスストアの分布図ー競合店の多いコンビニを探すー	プリントによる復習
	7	東京都の地価分布図の作成ー国土数値情報の地価公示データの利用ー	プリントによる復習
8	東京都八王子市の土地利用の変化ー国土数値情報の土地利用メッシュデータの利用ー	プリントによる復習	
9	水質調査マップの作成	プリントによる復習	
10	ヒートアイランドに及ぼす環境パラメータの評価	プリントによる復習	
11	測地系と座標変換について	プリントによる復習	
12	緯度経度の取得方法、政府統計の活用窓口の利用	プリントによる復習	
13	白地図画像の地図データ化、地図太郎の利用①	プリントによる復習	
14	地図太郎の利用②	プリントによる復習	
15	地図太郎の利用③	プリントによる復習	
16	まとめ	レポート作成	
テキスト・参考文献・資料など	テキスト・参考文献・資料など 毎回、プリントを配布する。 浮田典良『ジオ・パルNEO 地理学便利帳』海青社、2017年。谷 謙二『フリーGISソフト MANDARA10入門』古今書院 2018年、服部兼敏『地域支援のためのコンパクトGIS 地図太郎入門』2古今書院、2013年。 その他、授業の中でその都度紹介する。		
学びの手立て	積み上げ式の授業なので、休まないようにしてください。毎回授業で習ったGIS操作方法は必ずPC教室で復習すること。		
評価	成績は、レポート（5回）【20点×5回=100点で評価する。】		

学びの継続	次のステージ・関連科目 南島地理学特論Ⅰ
-------	-------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島文学特論 I A	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-狩俣 恵一	1年	karimata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 南島の祈願詞・説話・歌謡・芸能について総合的に考え、修士論文執筆に活用する。	メッセージ 奄美・沖縄・宮古・八重山の祭りの由来伝承や芸能を中心に、民俗学的見地から総合的な研究力を養う。
	到達目標 修士論文執筆に向けての総合力を養う。	

学びの準備	到達目標 修士論文執筆に向けての総合力を養う。
-------	----------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ニライカナイ信仰	ニライカナイの調査
	2	火の神信仰	火の神の種類調査
	3	村落祭祀と御嶽信仰	御嶽について調べる
	4	王府祭祀と御嶽信仰	首里城の御嶽を調べる
	5	ノロとユタ	ユタの話調べる
	6	マングナシ祭祀の由来伝承	石垣島川平の行事を調べる
	7	赤マタ祭祀の由来伝承	西表島古見の行事を調べる
	8	種子取祭祀の由来伝承	竹富島の行事を調べる
	9	世迎え祭祀の由来伝承	世乞いの歌について調べる
	10	呪言と短詞形歌謡	南島の短詞形歌謡を調べる
	11	呪詞と長詞形歌謡	南島の長詞形歌謡を調べる
	12	伝説と禁忌	南島の禁忌を調べる
	13	伝説と諺	南島の諺を調べる
	14	伝説と歌謡	南島の伝説歌謡を調べる
	15	南島の思想	南島の古歌謡を整理する
16	総括とレポート提出	レポートの準備	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：なし 参考文献：その都度指示する。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 王府祭祀と村落祭祀に関わる暦・陰陽五行・風水等について学ぶこと。
-------	--

学びの実践	評価 レポート80%・平常点（授業への取組）20%
-------	------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 修士論文
-------	---------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島文学特論 I B	後期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-狩俣 恵一	1年	karimata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 『おもろさうし』『琉歌百控』『遺老説傳』の文献を中心に、王府の歌謡・説話について総合的に考え、修士論文執筆に活用する。	メッセージ 奄美・沖縄・宮古・八重山の祭りの由来伝承や芸能を中心に、民俗学的見地から総合的な研究力を養う。
	到達目標 修士論文執筆に向けての総合力を養う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	王府の祭祀と『おもろさうし』	関連する『おもろさうし』を読む
	2	王府の外交と琉歌	関連する『琉歌百控』を読む
	3	王府の国内政策と『遺老説傳』	関連する『遺老説傳』を読む
	4	オモロと宮古・八重山	関連する『おもろさうし』を読む
	5	オモロと奄美諸島	関連する『おもろさうし』を読む
	6	オモロと舞踊	関連する『おもろさうし』を読む
	7	オモロと御冠船踊り	関連する『おもろさうし』を読む
	8	琉歌と御前演奏	関連する『琉歌百控』を読む
	9	琉歌と地方	関連する『琉歌百控』を読む
	10	琉歌と遊郭	関連する『琉歌百控』を読む
	11	琉歌と舞踊	関連する『琉歌百控』を読む
	12	長寿と『遺老説傳』	関連する『遺老説傳』を読む
	13	奇談と『遺老説傳』	関連する『遺老説傳』を読む
	14	口説と薩摩・江戸	口説について調べる
15	琉球の言語文化の特質	これまでの資料を整理する	
16	総括とレポート提出	レポートを作成する	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：なし 参考文献：その都度指示する。		
	学びの手立て 王府の祭祀・外交・儀礼に関わる暦・陰陽五行や、琉球国の官位・役職などを学ぶ。		
	評価 レポート80%・平常点（授業への取組）20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 修士論文
-------	---------------------



※ポリシーとの関連性

大学院生として身につけておくべき理論的素地を育て、南島文学・文化の専門的な知識を深めていくことを目指す。

[ / ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島文学特論ⅡA	前期	木4	0
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也	1年	5号館5525研究室、yamaguchi@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>地域の文化情報センターである図書館(公共図書館・大学図書館・学校図書館・専門図書館)における、南島文化関係の地域資料(郷土の文学作品・伝承話関係資料を初めとする郷土資料・地方行政資料)の収集(選択)、整理(組織化)、保存(管理)、利活用の方法を、図書館現場への多様なアプローチを通して実践的に修得する。</p>	<p>本授業は図書館司書として働く現職者、または司書職を目指す大学院生、図書館機能に関心をもちその活用を目指す研究者を対象とした内容になっています。専門職(司書、学校司書等)として、または図書館を利用する研究者として、独特の歴史文化をもつ沖縄だからこそ、身につけるべき地域資料に関する専門性を共に高め合ひましょう。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自身が所属する図書館(館種)、または関心を持つ館種における地域資料の多様性やはたらきを理解することができる。</li> <li>地域資料の収集・活用方法について、先進的な取り組みを行う専門機関の活動内容を知り、身近な図書館での活動を評価するための客観的な視点を修得する。</li> <li>図書館が収集・整理・保存・提供している地域資料の種類や所在を知り、自身の学術研究(文献収集等)に活かすことができる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読み授業にそなえる
	2	図書館と地域資料①地域資料の定義と役割・種類	指定した参考資料を読んでくる
	3	図書館と地域資料②地域資料をめぐる歴史的展開	指定した参考資料を読んでくる
	4	図書館と地域資料③郷土資料(文学作品・伝承話などの芸術系資料)の種類	指定した参考資料を読んでくる
	5	図書館と地域資料④郷土資料(小冊子・リーフレットなどの情報系資料)の種類	指定した参考資料を読んでくる
	6	図書館と地域資料⑤郷土資料(歴史文化系資料)の種類	指定した参考資料を読んでくる
	7	図書館と地域資料⑥地方行政資料(行政情報・まちづくり資料)の種類	指定した参考資料を読んでくる
	8	ゲストトーク(1) 専門機関における地域資料の収集・活用例(文学・伝承話系)	専門機関の事前調査
	9	専門機関の訪問・調査(1-1)	活動内容を整理する
	10	専門機関の訪問・調査(1-2)	課題を検討、レポートをまとめる
	11	ゲストトーク(2) 専門機関における地域資料の収集・活用例(歴史系)	専門機関の事前調査
	12	専門機関の訪問・調査(2-1)	活動内容を整理する
	13	専門機関の訪問・調査(2-1)	課題を検討、レポートをまとめる
14	調査レポート報告①	調査レポートをまとめる	
15	調査レポート報告②・講義のまとめ	講義をふりかえる	
16			
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは使用しません。参考図書は次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・蛭田廣一著『地域資料サービスの実践』(JLA図書館実践シリーズ41), 日本図書館協会, 2019 ほか</li> <li>・全国公共図書館協議会編『公立図書館における地域資料サービスに関する報告書』全国公共図書館協議会, 2018</li> <li>・地方史研究協議会編『学校資料の未来: 地域資料としての保存と活用』岩田書院, 2019</li> </ul>		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前半は指定された参考資料類は必ず事前に読んでくることをその回の受講の条件とします。</li> <li>・ゲストトーク～専門機関の訪問の3回分は受講生の日程を調整し、集中形式で実施します。</li> <li>・授業時間内でのグループワーク(ディスカッション)には積極的に参加しましょう。</li> </ul>		
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>①調査レポート報告の到達度・・・60%</li> <li>②授業時間内のグループワークでの積極性・・・20%</li> <li>③指定された参考資料の事前学習状況・・・20%</li> </ul>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージ 本講義で学んだ知識を、受講生各自の職業・研究活動の中でより実践的に活かしていくための講義として「南島文学特論ⅡB」という科目を後期に開講する予定です。こちらぜひ受講しましょう。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

大学院生として身につけておくべき理論的素地を育て、南島文学・文化の専門的な知識を深めていくことを目指す。

[ / ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島文学特論ⅡB	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也	1年	5号館5525研究室、yamaguchi@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	地域の文化情報センターである図書館(公共図書館・大学図書館・学校図書館・専門図書館)における、南島文化関係の地域資料(郷土の文学作品・伝承関係資料を初めとする郷土資料・地方行政資料)の収集(選択)、整理(組織化)、保存(管理)方法を実践的に学ぶとともに、その効果的な収集・管理・提供方法を検討(提案)し、図書館現場との協働を通してその効果を検証する。	本授業は図書館司書として働く現職者、または司書職を目指す大学院生、図書館機能に関心を持ちその活用を目指す研究者を対象とした内容になっています。専門職(司書、学校司書等)として、または図書館を利用する研究者として、独特の歴史文化をもつ沖縄だからこそ、身につけるべき地域資料に関する専門性を共に高め合ひましょう。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身が所属する図書館(館種)、または関心を持つ館種における地域資料の多様な働きを学び、フィールドワークを通して、実際の職業生活、研究生生活を改善するための具体的なアイデアを提案・実現・検証することができる。</li> <li>・図書館が収集・整理・保存・提供している地域資料の種類や所在を知り、自身の学術研究(文献収集等)に活かすことができる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・前期の学習の振り返り	シラバスを読み授業にそなえる
	2	研究手法の説明(フィールドワーク・グループワークの進め方)	指定した参考資料を読んでくる
	3	フィールドワークの設計①—対象館の検討・設定	フィールドワーク対象館の検討
	4	フィールドワークの設計①—対象館の検討・設定	対象館での現状分析
	5	フィールドワークの設計①—対象館の検討・設定	検証方法の検討
	6	フィールドワークの準備①—調査協力の依頼・プレゼン内容の検討	企画書案の検討
	7	フィールドワークの準備②—企画書の作成	企画書案の再検討
	8	フィールドワークの準備③—調査館の訪問・企画内容の提案	プレゼンの準備
	9	フィールドワークの準備④—企画内容の見直し	フィードバック・企画内容の見直し
	10	フィールドワークの実施①—企画の実現(1)	企画の準備・実現
	11	フィールドワークの実施②—企画の実現(2)	企画の準備・実現
	12	フィールドワークの検証①—効果の測定・分析	アンケート等の実施
	13	フィールドワークの検証②—効果の測定・分析	アンケート等の分析
14	フィールドワークの検証③—調査館での報告	調査レポートをまとめる	
15	講義のまとめ・レポートの提出	講義をふりかえる	
16			
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	<p>テキストは使用しません。参考図書は次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・蛭田廣一著『地域資料サービスの実践』(JLA図書館実践シリーズ41), 日本図書館協会, 2019 ほか</li> <li>・全国公共図書館協議会編『公立図書館における地域資料サービスに関する報告書』全国公共図書館協議会, 2018</li> <li>・地方史研究協議会編『学校資料の未来: 地域資料としての保存と活用』岩田書院, 2019</li> </ul>		
	学びの手立て		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考資料類は必ず事前に読んでくること、事前課題に取り組むことをその回の受講の条件とします。</li> <li>・フィールドワーク対象館訪問の回は受講生の日程を調整し、集中形式で実施します。</li> <li>・授業時間内でのグループワーク(ディスカッション)には積極的に参加しましょう。</li> </ul>		
	評価		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>①期末レポートの到達度・・・20%</li> <li>②授業時間内外のフィールドワークの到達度・・・60%</li> <li>③事前学習状況・・・20%</li> </ul>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>講義でのフィールドワークを通して得られる地域資料に関する専門知識を各自の職業生活や研究活動の中で活かしていただくことを願います。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島方言学特論 I	前期	月 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	1 年	研究室番号：5401 E-mail：kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球語圏の言語資料に出てくる文法現象及び単語の意味の分析と考察を通して、琉球語の表現についての知識を得る。その際、日本語学における研究成果を参照して日本語と琉球語の比較研究を行うことにより、両言語についての理解を深める。	メッセージ この授業では、現代日本語共通語との比較を通して琉球語についての言語学的な専門知識を深めていきます。実際の分析・考察の作業を通して、言語研究の面白さを味わっていただければと思います。
	到達目標 ・琉球語諸方言の表現を正確に理解できる。 ・琉球語と日本語共通語との共通点や相違点を説明できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、授業の進め方について	シラバスを読み授業に備える
	2	琉球語資料の紹介と概要の説明（1）	授業の復習、分析対象資料の選定
3	琉球語資料の紹介と概要の説明（2）、分析対象資料（テキスト）の決定	授業の復習	
4	文法現象および語の抽出（1）	同上	
5	文法現象および語の抽出（2）	同上	
6	文法現象および語の抽出（3）、分析対象（テーマ）の選定	先行研究の収集とまとめ	
7	語の意味の分析と考察（1）：先行研究まとめ	データの整理	
8	語の意味の分析と考察（2）：データの提示	データの分析と考察	
9	語の意味の分析と考察（3）：報告と質疑応答	報告の振り返り	
10	補足調査のためのデータ収集と確認	先行研究の収集とまとめ	
11	文法現象の分析と考察（1）：先行研究まとめ	データの整理	
12	文法現象の分析と考察（2）：データの提示	データの分析と考察	
13	文法現象の分析と考察（3）：報告と質疑応答 1	報告の振り返り	
14	文法現象の分析と考察（4）：報告と質疑応答 2	報告の振り返り、レポートの作成	
15	補足調査のためのデータ収集と確認	レポートの完成	
16	レポートの提出	授業内容のまとめと振り返り	
	テキスト・参考文献・資料など 授業内で適宜指示します。		
	学びの手立て まず、会話集や民話集など様々な琉球語資料の中から、分析対象とするテキストを1つ選定する。各担当でテキスト内の語句と文法現象を抽出して一覧表の形で整理し、それぞれの概要を確認する。その中から、より詳細な分析と考察を行うテーマを、文法現象と語の意味それぞれについて決定する。テーマには、例えば文法現象であれば、格やヴォイスといった文法カテゴリーが考えられる。より絞ったテーマでも構わない。授業では各担当者ごとに、先行研究の収集とまとめ、整理したデータの提示、分析・考察結果の報告を行ってもらう。そして報告内容の質疑応答を通して、自身の理解度や考察不十分な点を確認する。最後に提出するレポートでは、学術誌に投稿できるくらいのレベルを目指してほしい。		
	評価 (1) 分析・考察の進め方、報告内容 (30%) (2) 質疑応答など、授業への積極的な関わり方 (20%) (3) レポートの提出とその内容 (50%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 南島方言学特論Ⅱ、南島言語文化特殊研究Ⅰ・Ⅱ
-------	---------------------------------------

※ポリシーとの関連性 琉球語の危機の現状と問題点を理解し、その解決策を考えることで、高度な専門性を備えた職業人を養成することにつながる。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島方言学特論Ⅱ	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	1年	研究室番号：5401 E-mail：kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>琉球語が現在置かれている状況について正確な知識を得ることを目指す。さらに、これまでに行われてきている琉球語の継承活動の事例についての調査・分析を通して、継承のための具体的な方法を考え、実践を試みる。</p>	<p>琉球語継承のための活動が年々盛んになっています。この授業ではまず、その現状について正しく把握することを目指します。そして、琉球語以外の危機言語とその継承活動の内容（成果と問題点）についても学び、琉球語継承のためにできることを考え、その実践を試みます。危機言語の問題は決して対岸の火事などではありません。より良い実践が生み出されることを期待します。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機言語としての琉球語の現状について正確に説明できるようになる。</li> <li>言語継承のための問題点を理解し、その解決のための自分なりの意見を持つ。</li> <li>琉球語継承のための方策を考え、実践する。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、授業の進め方について	シラバスを読み授業に備える
	2	琉球語の概要のおさらい（1）	授業の復習
	3	琉球語の概要のおさらい（2）	授業の復習、活動事例の調査
	4	琉球語の現状と問題点	活動事例の調査、報告の準備
	5	琉球語の継承活動事例の調査報告（1）	活動事例の調査、報告の準備
	6	琉球語の継承活動事例の調査報告（2）	活動事例の調査、報告の準備
	7	琉球語の継承活動事例の調査報告（3）、全体ディスカッション	報告の振り返り
8	世界の危機言語と継承活動（1）	授業の復習	
9	世界の危機言語と継承活動（2）	方策を考える、発表の準備	
10	琉球語継承のための方策案（1）、質疑応答	方策を考える、発表の準備	
11	琉球語継承のための方策案（2）、質疑応答	報告の振り返り、計画案の作成	
12	実践のための計画案	教材、レポート等の作成	
13	実践のための作業内容の報告（1）	教材、レポート等の作成	
14	実践のための作業内容の報告（2）	教材、レポート等の作成	
15	実践のための作業内容の報告（3）	教材、レポート等の作成	
16	教材、レポート等の提出	授業内容のまとめと振り返り	
テキスト・参考文献・資料など	授業内で適宜指示します。		
学びの手立て	危機言語、琉球語の現状と継承活動に関する基本的な知識を身につけたのちに、琉球語継承のための実践案について、具体的な方策を検討してもらおう。例えば、学習教材の作成や教育プログラムの構築などが考えられる。なお、これらを授業内で完成させるのは時間的に難しいため、その「素案」を教材やレポートとして提出してもらおう。実現可能性、有用性も検証し、琉球語の継承に十分寄与できるような方策の提示を目指す。		
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 活動事例の調査とその報告 (30%)</li> <li>(2) 質疑応答など、授業への積極的な関わり方 (20%)</li> <li>(3) 実践のための作業内容の報告 (20%)</li> <li>(4) 教材、レポート等の提出とその内容 (30%)</li> </ul>		

学びの継続	次のステージ・関連科目 南島方言学特論Ⅰ（前期に受講済みであること）、南島言語文化特殊研究Ⅰ・Ⅱ
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島民俗宗教特論Ⅰ	前期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	及川 高	1年	メール (t.oikawa@okiu.ac.jp) に問い合わせること	

学びの準備	ねらい この授業では主に、沖縄県における道教および風水に焦点を合わせて、在来の民俗宗教との関係につき、先行研究を体系的に読み込んでいく。	メッセージ 専門的な論文を読むことになる。進捗によっては英語による論文も読むことになるため、その前提で登録すること。
	到達目標 沖縄県における中国系の外来宗教についての基礎知識、研究史像、資料論が理解できていることを到達目標とする。	

到達目標	沖縄県における中国系の外来宗教についての基礎知識、研究史像、資料論が理解できていることを到達目標とする。
------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	配布した論文を読み、要約する
	2	論文の精読とディスカッション	配布した論文を読み、要約する
	3	論文の精読とディスカッション	配布した論文を読み、要約する
	4	論文の精読とディスカッション	配布した論文を読み、要約する
	5	論文の精読とディスカッション	配布した論文を読み、要約する
	6	論文の精読とディスカッション	配布した論文を読み、要約する
	7	論文の精読とディスカッション	配布した論文を読み、要約する
	8	論文の精読とディスカッション	配布した論文を読み、要約する
	9	論文の精読とディスカッション	配布した論文を読み、要約する
	10	論文の精読とディスカッション	配布した論文を読み、要約する
	11	論文の精読とディスカッション	配布した論文を読み、要約する
	12	論文の精読とディスカッション	配布した論文を読み、要約する
	13	論文の精読とディスカッション	配布した論文を読み、要約する
	14	論文の精読とディスカッション	配布した論文を読み、要約する
15	論文の精読とディスカッション	配布した論文を読み、要約する	
16	まとめ		
	テキスト・参考文献・資料など 講義初回にリストを配付する。		
	学びの手立て 内容は思想史、宗教者研究、文化史、物質文化論などの様々なアプローチに及ぶ。1つの方法のみにこだわらない学際的な研究手法に慣れること。		
	評価 ディスカッションへの参加にもとづいて評価する。①専門知識の習得（50%）、②ディスカッションへの積極的参加（50%）、の2つの観点から評価を与える		

学びの継続	次のステージ・関連科目 南島民俗宗教特論Ⅱ
-------	--------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島民俗宗教特論Ⅱ	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	及川 高	1年	メール (t.oikawa@okiu.ac.jp) に問い合わせること	

学びの準備	ねらい この授業では主に、沖縄県における来訪神の信仰に焦点を合わせて、先行研究を体系的に読み込んでいく。	メッセージ 専門的な論文を読むことになる。進捗によっては英語による論文も読むことになるため、その前提で登録すること
	到達目標 沖縄県における来訪神の信仰についての基礎知識、研究史像、資料論が理解できていることを到達目標とする。	

到達目標	沖縄県における来訪神の信仰についての基礎知識、研究史像、資料論が理解できていることを到達目標とする。
------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	配布した論文を読み、要約する
	2	論文の精読とディスカッション	配布した論文を読み、要約する
	3	論文の精読とディスカッション	配布した論文を読み、要約する
	4	論文の精読とディスカッション	配布した論文を読み、要約する
	5	論文の精読とディスカッション	配布した論文を読み、要約する
	6	論文の精読とディスカッション	配布した論文を読み、要約する
	7	論文の精読とディスカッション	配布した論文を読み、要約する
	8	論文の精読とディスカッション	配布した論文を読み、要約する
	9	論文の精読とディスカッション	配布した論文を読み、要約する
	10	論文の精読とディスカッション	配布した論文を読み、要約する
	11	論文の精読とディスカッション	配布した論文を読み、要約する
	12	論文の精読とディスカッション	配布した論文を読み、要約する
	13	論文の精読とディスカッション	配布した論文を読み、要約する
	14	論文の精読とディスカッション	配布した論文を読み、要約する
15	論文の精読とディスカッション	配布した論文を読み、要約する	
16	まとめ		
	テキスト・参考文献・資料など 講義初回にリストを配付する。		
	学びの手立て 主に参与観察による民俗誌叙述を読み込んでいくことで理解を深めていく。受講者には民族誌の読解を踏まえた自分なりの仮説の提起を求める。		
	評価 ディスカッションへの参加にもとづいて評価する。①専門知識の習得（50%）、②ディスカッションへの積極的参加（50%）、の2つの観点から評価を与える		

学びの継続	次のステージ・関連科目 南島民俗宗教特論Ⅰ
-------	--------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島民俗特論 I	前期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	及川 高	1年	研究室 5511 e-mail t.oikawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この講義では南西諸島の民俗文化につき、研究を行うための基礎知識を身につける一方、それをどのように研究し、考察するのかについて、民俗学の基本的な方法の習得を目指す。特に関連分野の専門的な論文の読解を通じ、フィールドワークでどのようなデータをあつめ、またそれらをどのように分析することで論文としてまとめ上げていくのかを考えながら身につけていく。	メッセージ この講義は論文を書けるようになるための訓練にあたり、受講に際しては事前に指示した論文を精読し、自分なりの理解を作っておくことが必要です。
	到達目標 ①民俗学の方法論や日本民俗学の学史における沖縄の位置付けについて理解できるようになること。 ②沖縄の民俗研究において論点となっているいくつかの課題について理解できるようになること。 ③先行研究を踏まえ、自分なりの問いや調査計画について見通しをつけられるようになること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	南島とはいかなる地域か	指示した論文を読み要約を作成する
	2	近代日本の「南島」政策と民俗文化	指示した論文を読み要約を作成する
	3	南島の社会構造① 親族	指示した論文を読み要約を作成する
	4	南島の社会構造② 村落	指示した論文を読み要約を作成する
	5	南島の社会構造③ 個人	指示した論文を読み要約を作成する
	6	南島の宗教① 祭祀	指示した論文を読み要約を作成する
	7	南島の宗教② シヤマニズム	指示した論文を読み要約を作成する
	8	南島の宗教③ 俗信と知識	指示した論文を読み要約を作成する
	9	南島の生業① 環境適応	指示した論文を読み要約を作成する
	10	南島の生業② 農業	指示した論文を読み要約を作成する
	11	南島の生業③ 漁撈	指示した論文を読み要約を作成する
	12	民俗社会の変容① 過疎・高齢化	指示した論文を読み要約を作成する
	13	民俗社会の変容② 観光	指示した論文を読み要約を作成する
	14	民俗社会の変容③ 人の移動	指示した論文を読み要約を作成する
	15	沖縄民俗学の課題	指示した論文を読み要約を作成する
	16		
	テキスト・参考文献・資料など 各回において読む論文は初回に指示する。事前に精読し、要約を作成しておくことを求める。		
	学びの手立て 論文を読む作業を通じて、学びを深めていく。事前に論文に目を通していないということがないようにすること。なお受講前に高度で専門的な知識を求めるものではないが、論文を読んで分からない箇所は事前に調べておくなどの準備は各自で行うものとする。また各回において論文の要約の作成を求め、理解度をチェックする。これは毎回400字程度を想定しているが、将来的に修士論文を仕上げるにあたっての訓練を兼ねている。これらを時間外に課すため、しっかり取り組むこと。		
	評価 成績に関しては毎回の要約を20%とし、講義を通じた論文への理解度によって、平常点80%で評価する。遅刻・欠席は減点の対象とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 南島民俗学特論 II
-------	---------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島民俗特論Ⅱ	後期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	及川 高	1年	研究室 5511 e-mail t.oikawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この講義では南西諸島の民俗文化につき、研究を行うための基礎知識を身につける一方、それをどのように研究し、考察するのかについて、文化人類学・社会人類学の基本的な方法の習得を目指す。特に関連分野の専門的な論文の読解を通じ、フィールドワークでどのようなデータをあつめ、またそれらをどのように分析することで論文としてまとめ上げていくのかを考えながら身につけていく。	メッセージ この講義は論文を書けるようになるための訓練にあたり、受講に際しては事前に指示した論文を精読し、自分なりの理解を作っておく必要があります。
	到達目標 ①民俗学の方法論や日本民俗学の学史における沖縄の位置付けについて理解できるようになること。 ②沖縄の民俗研究において論点となっているいくつかの課題について理解できるようになること。 ③先行研究を踏まえ、自分なりの問いや調査計画について見通しをつけられるようになること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	世界のなかの沖縄	指示した論文を読み要約を作成する
	2	エスニシティとアイデンティティ	指示した論文を読み要約を作成する
	3	文化の客体化	指示した論文を読み要約を作成する
	4	創られた伝統	指示した論文を読み要約を作成する
	5	宗教的リアリティ	指示した論文を読み要約を作成する
	6	儀礼の過程	指示した論文を読み要約を作成する
	7	社会運動	指示した論文を読み要約を作成する
	8	モノの世界	指示した論文を読み要約を作成する
	9	知識	指示した論文を読み要約を作成する
	10	暴力	指示した論文を読み要約を作成する
	11	病と狂気	指示した論文を読み要約を作成する
	12	ジェンダー	指示した論文を読み要約を作成する
	13	身体	指示した論文を読み要約を作成する
	14	ルーツ	指示した論文を読み要約を作成する
	15	未来	指示した論文を読み要約を作成する
	16		
	テキスト・参考文献・資料など 各回において読む論文は初回に指示する。事前に精読し、要約を作成しておくことを求める。		
	学びの手立て 論文を読む作業を通じて、学びを深めていく。事前に論文に目を通していないということがないようにすること。なおこの講義では、英語で書かれた論文を利用する場合がある。あらかじめ了解しておくこと。受講前に高度で専門的な知識を求めるものではないが、論文を読んで分からない箇所は事前に調べておくなどの準備は各自で行うものとする。また各回において論文の要約の作成を求め、理解度をチェックする。これは毎回400字程度を想定しているが、将来的に修士論文を仕上げるにあたっての訓練を兼ねている。これらを時間外に課すため、しっかり取り組むこと。		
	評価 成績に関しては毎回の要約を20%とし、講義を通じた論文への理解度によって、平常点80%で評価する。遅刻・欠席は減点の対象とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 南島歴史文化特殊研究
-------	---------------------------



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島民俗文化特殊研究 I	前期	木 6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	石垣 直	1年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本ゼミの主眼は、南島民俗の研究史を概観して主要文献を精読し、「南島民俗文化」を研究するための基礎知識を身に着けることにある。こうした作業を通じて、各受講生の問題意識を深め、研究主題と方法の確立をめざす。また、年度後半には翌年度の修士論文執筆に向けた論文構想・構成についても講義し議論を深める。</p>	<p>論文執筆は決して容易な作業ではない。しかし、基礎知識の学習、先行研究の読解、論文構想・構成、調査・データ収集、考察・分析という系統的なプロセスを学ぶことは、各自の研究活動のみならず、社会・文化を理解し行動する姿勢においても、極めて意義深いものである。「南島民俗文化」の理解を、いかに発展させるかを常に意識した学びを実践してほしい。</p>
到達目標	<p>本ゼミの到達目標は、「南島民俗文化」研究の基礎を学び、かつどのような調査研究手法・構想・構成によって修士論文を作成することが可能なかを理解し、実際に修士論文執筆のための下準備を進めることにある。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画	テーマ	時間外学習の内容
	回		
	1	ガイダンス	講義の概要を理解する。
	2	論文作成の作法（1）	論文作成の作法を整理する。
	3	論文作成の作法（2）	論文作成の作法を整理する。
	4	沖縄民俗研究史の概観（1）	研究史を学ぶ。
	5	沖縄民俗研究史の概観（2）	研究史を学ぶ。
	6	沖縄民俗研究史の概観（3）	研究史を学ぶ。
	7	文献資料読解（1）	文献を読み込み要約する。
	8	文献資料読解（2）	文献を読み込み要約する。
	9	文献資料読解（3）	文献を読み込み要約する。
	10	文献資料読解（4）	文献を読み込み要約する。
	11	文献資料読解（5）	文献を読み込み要約する。
	12	文献資料読解（6）	文献を読み込み要約する。
	13	個人発表（1）	個人発表の準備をする。
	14	個人発表（2）	個人発表の準備をする。
	15	まとめ	全体の講義内容を復習する。
	16	ガイダンス	講義の概要を理解する。
	17	調査成果報告（1）	調査成果の発表準備をする。
	18	調査成果報告（2）	調査成果の発表準備をする。
	19	調査成果報告（3）	調査成果の発表準備をする。
	20	文献資料読解（7）	文献を読み込み要約する。
	21	文献資料読解（8）	文献を読み込み要約する。
	22	文献資料読解（9）	文献を読み込み要約する。
	23	修論構想（1）	修論構想の発表準備をする。
	24	修論構想（2）	修論構想の発表準備をする。
	25	修論構想（3）	修論構想の発表準備をする。
	26	修論論点整理（1）	論点を整理する。
	27	修論論点整理（2）	論点を整理する。
	28	修論概要作成（1）	修論概要を作成する。
	29	修論概要作成（2）	修論概要を作成する。
30	まとめ	全体の講義内容を復習する。	
31	（予備日）		

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 講義の中で適宜、紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>本ゼミは「南島民俗文化」に関する修士論文を作成するための基礎的な科目であるが、受講生には専攻・領域を問わず、南島文化研究科の関連諸科目を積極的に履修することを勧める。加えて、「南島民俗文化」に対する各受講生の理解を深化させることが、各自のキャリア形成においてどのような意味を持ち、そして沖縄の社会・文化へどのような貢献が可能かという問題意識を常にもちながら、本ゼミを履修してほしい。</p>
	<p>評価</p> <p>受講生の真摯な研究態度と調査への取り組みが基本条件である。学期末に課題レポートを提出させるとともに、修士論文作成に向けた各受講生の学習・研究姿勢そして実際の取り組みを、総合的に評価する。期末レポート(修論概要+α 70%)、平常点(30%)</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>南島民俗特論Ⅰ・Ⅱ、南島民俗宗教特論Ⅰ・Ⅱ、東アジア文化人類学特論ⅠA・ⅠB・Ⅱ・Ⅲほか。</p>

※ポリシーとの関連性 本ゼミは、「南島民俗文化特殊研究Ⅰ」で学んだ諸点を踏まえ、修士論文を完成させるための科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島民俗文化特殊研究Ⅱ	後期	木6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	石垣 直	2年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本ゼミの内容は、修士論文作成のための指導が中心となる。前年度書いた「修士論文概要」に沿って、各受講生の研究テーマに関する先行文献や関連研究の読み込みを進め、調査内容および資料整理とその分析・提示・論旨展開等について、指導する。</p>	<p>論文執筆は決して容易な作業ではない。しかし、基礎知識の学習、先行研究の読解、論文構想・構成、調査・データ収集、考察・分析という系統的なプロセスを学ぶことは、各自の研究活動のみならず、社会・文化を理解し行動する姿勢においても、極めて意義深いものである。「南島民俗文化」の理解を、いかに発展させるかを常に意識した学びを実践してほしい。</p>
到達目標	<p>本ゼミの到達目標は、修士論文作成にある。事例報告・事例研究に止まらず、「南島民俗文化研究」の歴史の中で自身の研究がどのような位置づけにあり、今後どのような発展可能性をもっているのかを十分に意識した修士論文の完成を目指す。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画	テーマ	時間外学習の内容
	回		
	1	ガイダンス	講義の概要を理解する。
	2	論文作成の作法（1）	論文作成の作法を整理する。
	3	論文作成の作法（2）	論文作成の作法を整理する。
	4	調査成果報告・検討（1）	調査成果報告を準備する。
	5	調査成果報告・検討（2）	調査成果報告を準備する。
	6	調査成果報告・検討（3）	調査成果報告を準備する。
	7	調査成果報告・検討（4）	調査成果報告を準備する。
	8	修論構成の再検討（1）	修論構成を再検討する。
	9	修論構成の再検討（2）	修論構成を再検討する。
	10	修論構成の再検討（3）	修論構成を再検討する。
	11	中間報告会準備（1）	中間報告を準備する。
	12	中間報告会準備（2）	中間報告を準備する。
	13	中間報告会準備（3）	中間報告を準備する。
	14	中間報告会準備（4）	中間報告を準備する。
	15	まとめ	全体の講義内容を復習する。
	16	ガイダンス	講義の概要を理解する。
	17	補足調査成果報告・検討（1）	補足調査の報告を準備する。
	18	補足調査成果報告・検討（2）	補足調査の報告を準備する。
	19	補足調査成果報告・検討（3）	補足調査の報告を準備する。
	20	補足調査成果報告・検討（4）	補足調査の報告を準備する。
	21	修論草稿推敲・論旨検討（1）	修論草稿を推敲する。
	22	修論草稿推敲・論旨検討（2）	修論草稿を推敲する。
	23	修論草稿推敲・論旨検討（3）	修論草稿を推敲する。
	24	修論草稿推敲・論旨検討（4）	修論草稿を推敲する。
	25	修論仮提出原稿の検討（1）	仮提出原稿を執筆する。
	26	修論仮提出原稿の検討（2）	仮提出原稿を執筆する。
	27	修論仮提出原稿の検討（3）	仮提出原稿を執筆する。
	28	修論仮提出原稿の検討（4）	仮提出原稿を執筆する。
	29	修論最終試験対策（1）	修論最終試験に備える。
30	修論最終試験対策（2）	修論最終試験に備える。	
31	（予備日）		

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 講義の中で適宜、紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>本ゼミは「南島民俗文化」に関する修士論文を作成するための基礎的な科目であるが、受講生には専攻・領域を問わず、南島文化研究科の関連諸科目を積極的に履修することを勧める。加えて、「南島民俗文化」に対する各受講生の理解を深化させることが、各自のキャリア形成においてどのような意味を持ち、そして沖縄の社会・文化へどのような貢献が可能かという問題意識を常にもちながら、本ゼミを履修してほしい。</p>
	<p>評価</p> <p>受講生の真摯な研究態度と調査・論文執筆への取り組みが基本条件である。修士論文作成に向けた各受講生の学習・研究姿勢そして修士論文の最終的な内容をもとに、総合的に評価する。修士論文内容（70%）、平常点（30%）</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>南島民俗特論Ⅰ・Ⅱ、南島民俗宗教特論Ⅰ・Ⅱ、東アジア文化人類学特論ⅠA・ⅠB・Ⅱ・Ⅲほか。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島歴史文化特殊研究 I	通年	火 6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤 秋人	1年	水曜日 2限のオフィスアワーに研究室（5 4 2 2）で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>修士論文を作成するための基礎的な作業を指導する。論文テーマの設定、先行研究の批判的検討および引用史料の解釈の検証、研究史の整理と問題点の抽出、論文における課題の明確化などである。修士論文の構想、研究史の整理について数回にわたって報告してもらいます。</p>	<p>県内外の図書館はもちろん、博物館や発掘調査現地説明会に足を運んで琉球史をめぐるモノや現場に接すること、学内外の研究会やシンポジウムに参加して雰囲気や議論に触れることは研究者としての財産になります。積極的に情報を収集して行動に移してください。</p>
	到達目標	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>先行研究を踏まえ、修士論文における課題を明確化できるようになる。</li> <li>修士論文の仮の章立てを作成できるようになる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション、年間スケジュールの確認	到達目標を理解する
	2	卒業論文の概要①—先行研究と課題—	卒業論文の課題を再確認する
	3	同②—引用史料と結論—	卒業論文の結論を再確認する
	4	修士論文に向けて—テーマと問題意識—	修士論文のテーマを確認する
	5	先行研究の読み合わせ①—論文の読み方—	当該論文の参考文献にあたる
	6	同②—当該論文の課題—	当該論文の参考文献にあたる
	7	同③—当該論文の結論—	当該論文の参考文献にあたる
	8	同④—当該論文の参考文献—	参考文献を系統的に把握する
	9	同⑤—当該論文の引用史料—	引用史料をリスト化する
	10	同⑥—引用史料の読み下し文の検証—	引用史料を繰り返し読む
	11	同⑦—引用史料の現代語訳の検証—	引用史料の文意をおさえる
	12	同⑧—当該論文の特徴—	当該論文の到達点を把握する
	13	修士論文の構想①—テーマの設定—	修士論文のテーマを再確認する
	14	修士論文の構想②—先行研究との関係—	先行研究との関係を再確認する
	15	修士論文の構想③—引用史料の見通し—	核となる史料をピックアップする
	16	夏季休暇中の調査研究計画の確認	調査研究計画を練り直す
	17	夏季休暇中の調査研究について報告	報告の準備をする
	18	研究史の整理①—先行研究一覧の作成 1）—	先行研究を網羅的に把握する
	19	同②—先行研究一覧の作成 2）—	先行研究を網羅的に把握する
	20	同③—引用史料リストの作成 1）—	関連史料を網羅的に把握する
	21	同④—引用史料リストの作成 2）—	関連史料を網羅的に把握する
	22	同⑤—史料の選定と読解 1）—	史料を繰り返し読む
	23	同⑥—史料の選定と読解 2）—	史料を繰り返し読む
	24	同⑦—先行研究の到達点 1）—	先行研究の到達点を理解する
	25	同⑧—先行研究の到達点 2）—	先行研究の到達点を理解する
	26	同⑨—先行研究の問題点 1）—	先行研究の問題点を理解する
	27	同⑩—先行研究の問題点 2）—	先行研究の問題点を理解する
	28	修士論文の構想④—課題の設定 1）—	先行研究を踏まえ課題を設定する
	29	同⑤—課題の設定 2）—	先行研究を踏まえ課題を設定する
	30	同⑥—章立て（仮）の作成—	論点を意識した章立てを作成する
31	春季休暇中の調査研究計画の確認	修士論文の課題を文章化する	

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】教科書は使用しません。前期に読み合わせる論文は受講生と相談のうえ決定します。  【参考文献】受講生の関心に応じてその都度紹介します。『回顧と展望』には刊行され次第目を通してください。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>先行研究の把握と批判的検討に寸暇を惜しまずつとめてください。</p>
	<p>評価</p> <p>先行研究の到達点と問題点の理解度（60％）、史料の選定と読解に取り組む姿勢（40％）によって総合的に評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次年度での修士論文執筆に向け、短期間ごとに自身の達成目標を立てたうえで調査研究に取り組んでください。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島歴史文化特殊研究Ⅱ	通年	土2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤 秋人	2年	水曜日2限のオフィスアワーに研究室(5422)で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>修士論文の完成を目指した指導をする。章立てと問題意識の再確認、中間発表会で指摘された問題点を反映を含めた本論の充実、課題と結論の整合性および明確化などである。章立てに基づき、序論、本論(特に重要な章もしくは節)、結論について数回にわたって報告してもらいます。</p>	<p>学内外の研究会やシンポジウムに積極的に参加し、できれば発言・質問することを自らに課してください。</p>
到達目標	<p>修士論文を作成するうえで、先行研究を踏まえた課題を設定し、関連史料を適切・効果的に用い、説得力のある結論を導き出すことができるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	イントロダクション、年間スケジュールの確認	到達目標を理解する
	2	春季休暇中の調査研究について報告	報告の準備をする
	3	修士論文の構成一章立てと問題意識の再確認一	章立ての再構成を試行する
	4	序論について①—研究史の整理—	先行研究を再確認する
	5	同②—課題の明確化1)—	先行研究の課題と結論を把握する
	6	同③—課題の明確化2)—	先行研究の課題と結論を把握する
	7	本論について①—前半の引用史料の読み下し1)—	史料を繰り返し読む
	8	同②—前半の引用史料の読み下し2)—	史料を繰り返し読む
	9	同③—前半の引用史料の現代語訳1)—	史料の文意をおさえる
	10	同④—前半の引用史料の現代語訳2)—	史料の文意をおさえる
	11	同⑤—前半の論点の確認1)—	論点をより明確にする
	12	同⑥—前半の論点の確認2)—	論点をより明確にする
	13	同⑦—前半の論点の確認3)—	論点をより明確にする
	14	中間発表会に向けた準備①—報告箇所決定—	中間発表会の準備を進める
	15	同②—報告内容の確認—	中間発表会の準備を進める
	16	夏季休暇中の調査研究計画の確認	修士論文の下書きを開始する
	17	夏季休暇中の調査研究について報告	報告の準備をする
	18	本論について⑧—前半と後半の整合性の確認—	前半と後半の構成を確認する
	19	同⑨—後半の引用史料の読み下し1)—	史料を繰り返し読む
	20	同⑩—後半の引用史料の読み下し2)—	史料を繰り返し読む
	21	同⑪—後半の引用史料の現代語訳1)—	史料の文意をおさえる
	22	同⑫—後半の引用史料の現代語訳2)—	史料の文意をおさえる
	23	同⑬—後半の論点の確認1)—	論点をより明確にする
	24	同⑭—後半の論点の確認2)—	論点をより明確にする
	25	同⑮—後半の論点の確認3)—	論点をより明確にする
	26	結論について①—結論の明確化1)—	課題を再確認する
	27	同②—結論の明確化2)—	前半の論点を再確認する
	28	同③—結論の明確化3)—	後半の論点を再確認する
	29	同④—課題との整合性の確認—	課題と結論を再確認する
30	同⑤—結論の最終確認—	課題と結論を再確認する	
31	まとめ	修士論文を推敲する	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】教科書は使用しません。レジュメや図表などは必要に応じて配布します。</p> <p>【参考文献】先行研究の紹介などは個別に対応します。『回顧と展望』には刊行され次第目を通してください。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>踏まえるべき先行研究（著書）の結論と序論の整合性を批判的に読み込んでください。</p>
学 び の 継 続	<p>評価</p> <p>修士論文の作成や報告に取り組む姿勢（40%）と論文の完成度（60%）によって総合的に評価します。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>修士論文の内容を学外の研究会で報告すること、学術雑誌に投稿することを意識してください。</p>



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本近現代文学特論 I A	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-黒澤 亜里子	1年		

学びの準備	ねらい (1) 文献探索の基礎を学ぶ。 (2) 日本/沖縄の作家のテキストを読み、沖縄文学の現在とその可能性について考える。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) ・発表、討議。 沖縄の近現代作家のテキストを取り上げる。
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。
	学びの手立て 履修の心構え ・毎時間、発表担当者を設ける。
	評価 発表および文献探索法の基礎がどの程度身についているかによって評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本近現代文学特論 I B	後期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-黒澤 亜里子	1年		

学びの準備	ねらい 日本／沖縄の作家のテキストを読み、沖縄文学の可能性について考える。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） ・発表、討議。 沖縄の近現代作家のテキストを取り上げる予定である。
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。
	学びの手立て 履修の心構え ・毎時間、発表担当者を設ける。

学びの実践	
-------	--

学びの実践	
-------	--

学びの実践	評価 発表および文献探索法の基礎がどの程度身についているかによって評価する。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本近現代文学特論Ⅱ A	前期	火 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	1年	5号館404研究室 y.murakami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 文学研究の基礎を学び直し、分析に有用な理論と視点を培う。 文学理論をいかに活用するか、日本および沖縄近現代文学テキストの分析を通して実践的に理解する。	メッセージ 本科目では前半で文学理論の基礎を学びなおし、文学理論の活用法を日本および沖縄近現代文学を通して実践的に学習していく。 受講生にはレジュメの作成及び口頭発表を義務づける。
	到達目標 文学理論の基礎的内容を理解し、テキスト分析に生かせるようになる。 対象とする作家の文学的傾向や同時代状況、先行研究について適切に理解できるようになる。 文学テキストの分析の方向性を定める。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読んでくる
	2	テキスト選定	指定図書を読んでくる
	3	日本近代文学史①	指定図書を読んでくる
	4	日本近代文学史②	指定図書を読んでくる
	5	文学理論①	指定図書を読んでくる
	6	文学理論②	指定図書を読んでくる
	7	文学理論③	指定図書を読んでくる
	8	文学理論④	指定図書を読んでくる
	9	個人発表	指定図書を読んでくる
	10	個人発表	指定図書を読んでくる
	11	個人発表	指定図書を読んでくる
	12	個人発表	指定図書を読んでくる
	13	個人発表	指定図書を読んでくる
	14	個人発表	指定図書を読んでくる
	15	まとめ	指定図書を読んでくる
	16	予備日	レポート作成
	テキスト・参考文献・資料など 三原芳秋・渡邊英理・鶴戸聡編著『[クリティカル・ワード] 文学理論』 ほか、必要に応じて指示する		
	学びの手立て ①履修の心構え 指定されたテキストや論文は必ず事前に読んでくること。また授業時には積極的に発言すること。 ②学びを深めるために 授業時間中に提示された関連文献などを読み、幅広い知識の習得を心がけること。		
	評価 授業内でのディスカッションおよび発表50%、課題50%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 同時代評・同時代状況・先行研究を網羅した上でテキスト分析の方向性を決定していく。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本近現代文学特論ⅡB	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	1年	5号館404研究室、y.murakami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 対象とする作家の人生や文学的傾向、思想などについて適切に理解し、現在における意義を見出す。 個々のテキストの背後に広がる諸問題について整理して考察する。 実際にテキスト分析を進めていく。	メッセージ 本科目では個々の受講生の要望に応じてテキストを選定する。 対象テキストの問題点をピックアップした上でそれに関連する論文を精読し、新たな問題点の提示やテキスト読解につなげていく。
	到達目標 作家、同時代状況、先行研究を踏まえた上で個々のテキストの詳細な分析を実践する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	対象テキスト選定	扱いたいテキストを挙げる
	2	問題点ピックアップ	テキストの問題点整理
	3	関連文献講読①	指定図書を読んでくる
	4	関連文献講読②	指定図書を読んでくる
	5	関連文献講読③	指定図書を読んでくる
	6	先行研究論点整理	先行研究を集める
	7	新たな問題点、論点の提示	先行研究を読んでくる
	8	時代背景の考察①	テキストの時代背景を調べる
9	時代背景の考察②	テキストの時代背景を調べる	
10	個人発表	発表準備	
11	個人発表	発表準備	
12	個人発表	発表準備	
13	個人発表	発表準備	
14	個人発表	発表準備	
15	個人発表	発表準備	
16	予備日	講義の復習	
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。		
	学びの手立て ①履修の心構え 指定されたテキストや論文は必ず事前に読んでくること。また、ディスカッション時には積極的に発言すること ②学びを深めるために 授業時間中に提示された関連文献などを読み、幅広い知識の習得を心がけること。		
	評価 授業時のディスカッションおよび発表50%、レポート50%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージ 本科目で得たスキルを実践的な論文執筆に生かしていく。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本言語文化特殊研究 I	通年	月 6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	1 年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	日本の言語文化と教育について、文献調査、実地調査等を通して明らかにしていく。特に古典文学と日本の言語文化が教育にどのような影響を与えてきたのかについて、古典テキストの読解、分析を通して検討していく。修士論文作成に係る研究計画の具体化をはかり、論文執筆に向けた課題研究発表を毎時間行う。	インプットとアウトプットを意識して課題に取り組もう。データの収集と考察はセットである。狭く入って広く出る。課題は砕き、具体的、実践的な検証を心がけよう。悠々として急げ。

到達目標	日本言語文化に関わる調査・研究の方法を身に付け、学術論文の作成ができるようになる。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	講義の概要を理解する。
	2	論文作成方法①	論文作成方法の視点を整理する。
	3	論文作成方法②	論文作成方法の視点を整理する。
	4	文献検索方法①	文献検索方法を実践する。
	5	文献検索方法②	文献検索方法を実践する。
	6	実地調査方法①	実地調査方法を復習する。
	7	実地調査方法②	実地調査方法を復習する。
	8	先行研究等資料読解①	レジュメの作成・準備。
	9	先行研究等資料読解②	レジュメの作成・準備。
	10	先行研究等資料読解③	レジュメの作成・準備。
	11	先行研究等資料読解④	レジュメの作成・準備。
	12	先行研究等資料読解⑤	レジュメの作成・準備。
	13	課題レポート発表①	レジュメの作成・準備。
	14	課題レポート発表②	レジュメの作成・準備。
	15	まとめ	講義内容を振り返り復習する。
	16	ガイダンス	講義の概要を理解する。
	17	実地調査の報告①	レジュメの作成・準備。
	18	実地調査の報告②	レジュメの作成・準備。
	19	実地調査の報告③	レジュメの作成・準備。
	20	先行研究等資料読解⑥	レジュメの作成・準備。
	21	先行研究等資料読解⑦	レジュメの作成・準備。
	22	先行研究等資料読解⑧	レジュメの作成・準備。
	23	修士論文のアウトライン構想①	レジュメの作成・準備。
	24	修士論文のアウトライン構想②	レジュメの作成・準備。
	25	修士論文のアウトライン構想③	レジュメの作成・準備。
	26	修士論文における独創的意見の要件①	レジュメの作成・準備。
	27	修士論文における独創的意見の要件②	レジュメの作成・準備。
	28	修士論文における独創的意見の要件③	レジュメの作成・準備。
	29	修士論文の概要作成①	レジュメの作成・準備。
30	修士論文の概要作成②	レジュメの作成・準備。	
31	修士論文の概要作成③	レジュメの作成・準備。	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 講義中に適宜紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て ほぼ毎回、レジュメ作成を課すが、課題意識に基づいて進めていく。文献調査だけに限らず、広い意味でフィールドワークをとらえ、学校教育の現場や資料館、博物館、劇場などの様々な資料調査を行うことを心掛けてほしい。また、感染予防対策等に配慮して、修士論文作成に関わる研究旅行も計画する予定である。その都度、考えたこと、感じたこと、導き出したことを言語化して残すことを心がけよう。</p>
	<p>評価 作成したレジュメ等レポート課題（50%）、授業への参加状況・討論内容等（50%）</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 日本古典文学特論ⅠA・ⅠB、国語科教育学特論Ⅰ・Ⅱ、南島芸能特論Ⅰ・Ⅱ。中間発表以外に、各種紀要等への投稿も目指したい。また、関係学会、研究会等への参加によって研究の視野を広げたい。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本言語文化特殊研究 I	通年	土 3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	1年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 学術論文を作成するための基礎を学ぶ。文献探索、調査等の基礎研究を通じてテーマおよび方法を確定し、修士論文までの具体的な研究計画を作成する。紀要への投稿を目標とし、修士論文の一部となる論文を執筆する。	メッセージ 研究書を一週間に一冊ずつ読破していくと、論文執筆能力が身につくはずである。
	到達目標 修士論文概要をまとめ、論文の構成について考える。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） ①年間研究計画の作成（4月） ②調査、資料収集の方法 ③先行文献目録、研究史の作成 ④方法、視点の検討 ⑤夏期合宿で研究成果の中間発表を行う ⑥紀要論文の執筆、投稿（12月下旬提出） ⑦修士論文の概要を作成する（2月末）
	テキスト・参考文献・資料など 適宜、指示する。

学びの実践	学びの手立て 日本国語大辞典など大きな事典類を引くこと。
	評価 ①研究計画に沿って着実に課題に取り組んでいるか。30% ②中間発表および紀要論文（研究ノート）等。70%

学びの継続	次のステージ・関連科目 「日本言語文化特殊研究Ⅱ」では修士論文を完成させる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本言語文化特殊研究Ⅱ	通年	月6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	2年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 修士論文の作成のために、毎時間課題レポートを課し、具体的な論文作成指導を行う。日本の言語文化と教育について、文献調査、実地調査等を通して明らかにしていく。特に古典文学と日本の言語文化が教育にどのような影響を与えてきたのかについて、古典テキストの読解、分析を通して検討していく。	メッセージ インプットとアウトプットを意識して課題に取り組もう。データの収集と考察はセットである。狭く入って広く出る。課題は砕き、具体的、実践的な検証を心がけよう。悠々として急げ。
	到達目標 修理論文作成を目指して、関係資料の分析、先行研究を踏まえた論述の方法、説得力のある論の展開等を学び、実践できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	講義の概要を理解する。
	2	修士論文の構成（問題の所在、章立て）①	章立てについて整理する。
	3	修士論文の構成（問題の所在、章立て）②	章立てについて整理する。
	4	序論及び先行研究①	レジュメの作成・準備。
	5	序論及び先行研究②	レジュメの作成・準備。
	6	序論及び先行研究③	レジュメの作成・準備。
	7	先行研究の整理①	レジュメの作成・準備。
	8	先行研究の整理②	レジュメの作成・準備。
	9	先行研究の整理③	レジュメの作成・準備。
	10	実地調査の整理①	レジュメの作成・準備。
	11	実地調査の整理②	レジュメの作成・準備。
	12	実地調査の整理③	レジュメの作成・準備。
	13	中間発表会に向けた発表資料作成①	レジュメの作成・準備。
	14	中間発表会に向けた発表資料作成②	レジュメの作成・準備。
	15	中間発表会に向けた発表資料作成③	レジュメの作成・準備。
	16	ガイダンス	講義の概要を理解する。
	17	修士論文についての発表、検討	レジュメの作成・準備。
	18	修士論文についての発表、検討	レジュメの作成・準備。
	19	修士論文についての発表、検討	レジュメの作成・準備。
	20	修士論文についての発表、検討	レジュメの作成・準備。
	21	修士論文についての発表、検討	レジュメの作成・準備。
	22	修士論文についての発表、検討	レジュメの作成・準備。
	23	修士論文についての発表、検討	レジュメの作成・準備。
	24	修士論文についての発表、検討	レジュメの作成・準備。
	25	修士論文についての発表、検討	レジュメの作成・準備。
	26	修士論文についての発表、検討	レジュメの作成・準備。
	27	修士論文についての発表、検討	レジュメの作成・準備。
	28	修士論文についての発表、検討	レジュメの作成・準備。
	29	修士論文についての発表、検討	レジュメの作成・準備。
	30	修士論文についての発表、検討	レジュメの作成・準備。
31	修士論文のまとめ、製本、提出	修士論文を提出する。	



学	<p>テキスト・参考文献・資料など 講義中に適宜紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て          ほぼ毎回、レジュメ作成を課すが、課題意識に基づいて進めていく。文献調査だけに限らず、広い意味でフィールドワークをとらえ、学校教育の現場や資料館、博物館、劇場などの様々な資料調査を行うことを心掛けてほしい。また、感染予防対策等に配慮して、修士論文作成に関わる研究旅行も計画する予定である。その都度、考えたこと、感じたこと、導き出したことを言語化して残すことを心がけよう。</p>
学 び の 継 続	<p>評価          作成したレジュメ等レポート課題（20%）、修士論文（80%）</p> <p>次のステージ・関連科目          日本古典文学特論ⅠA・ⅠB、国語科教育学特論Ⅰ・Ⅱ、南島芸能特論Ⅰ・Ⅱ。中間発表以外に、各種紀要等への投稿も目指したい。また、関係学会、研究会等への参加によって研究の視野を広げたい。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語文化特殊研究Ⅱ	通年	土3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	黒澤 亜里子	2年		

学びの準備	ねらい 各自が設定したテーマに沿って、引き続き、調査、研究を行う。年間計画を立て、構想表を作成し、執筆、発表、検討を重ね、学位論文を完成する。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） ① 年間研究計画の作成。 ② 学位論文の構想表の作成と検討。 ③ 補足調査を行いながら、7月末の修士論文中間発表会に向けてのテーマを設定し、執筆する。 ④ 添付資料のあげ方、注記のつけ方、参考文献の選定に注意しながら、発表レジュメを完成する。 ⑤ 中間発表の反省点を踏まえ、夏休み明けまでに、学术论文の大まかな下書きをする。 ⑥ 下書きを元に、論文構成の補足、修正を行う。 ⑦ 1章ごとの検討を行いながら、12月の最終講義時までに修士論文を完了する。 ⑧ 全体を通してミスがないよう点検、完成する。 ⑨ 2月中旬の修士論文最終試験、論文発表会に向けての準備を行う。
	テキスト・参考文献・資料など その都度指示する。
	学びの手立て 履修の心構え ・基本的に毎回発表を行い、進度を報告する。
	評価 ① 毎回個々に出した課題に取り組んでいるか。 ② 学位論文。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語文化特殊研究Ⅱ	通年	土3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	2年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 修士論文を完成させ、研究者としての方法論を身につける。	メッセージ 迷いが生じたときは、原点に立ち戻り、ひたすらデータを打ち込むこと。
	到達目標 修士論文を完成させる。	

学びの準備	到達目標 修士論文を完成させる。

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） ①年間研究計画の作成 ②前年度末に提出した論文概要をふまえ、詳細な構想表を作成する ③7月末の中間発表会に向けて研究成果をまとめる ④中間発表での指摘、反省点をふまえ、構成、内容、方法等を総合的に再検討する ⑤夏期合宿において研究成果を発表する ⑥12月の講義終了時までに修士論文の下書きを提出する ⑦全体を通して総点検を行い、論文を手直しする（1月下旬提出） ⑧最終試験、発表会に向けて準備を行う
	テキスト・参考文献・資料など 適宜、指示する。
	学びの手立て 日本国語大辞典など大きな事典類を引くこと。
	評価 ①中間発表30% ②研究成果70%

学びの継続	次のステージ・関連科目 完成させた修士論文を踏まえ、論文を発表していく。
-------	---

※ポリシーとの関連性 2. 南島文化について、幅広い分野の一流の講師陣が専門的な知識によって対話的な指導を行う特論科目の提供。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本古典文学特論 I A	前期	火 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	1年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、万葉集歌を扱う。今から1300年ほど前を生きた万葉びとが詠んだ歌を、時代背景・作歌状況・作者の個性・習俗・ことば等々を踏まえながら、一首一首深く読み解く。	メッセージ 辞典類（「類聚名義抄」「時代別国語大辞典」等）を使って、事前に古語を調べてきてください。 【実務経験】高等学校教諭だった現場経験を生かして、授業実践に関する視点を意識した指導を行います。
	到達目標 1 主な万葉歌（第1期～4期）の作歌事情、歴史的な背景を理解すること。 2 万葉仮名（文字）の訓法を理解すること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを確認する
	2	大王の呼びかけ—雄略天皇の歌	資料の精読・分析・考察
	3	近江朝の花—額田王の歌	資料の精読・分析・考察
	4	19歳の死—有間皇子の歌	資料の精読・分析・考察
	5	二上山哀傷—大津皇子・大伯皇女の歌	資料の精読・分析・考察
	6	宮廷歌人の出現—柿本人麻呂（行幸歌・皇族挽歌・近江荒都歌）	資料の精読・分析・考察
	7	愛の讃歌—柿本人麻呂	資料の精読・分析・考察
	8	風景を詠む—山部赤人	資料の精読・分析・考察
9	伝説を詠う—高橋虫麻呂	資料の精読・分析・考察	
10	知識人の憂愁—大伴旅人	資料の精読・分析・考察	
11	貧困、老い、病、死、子ども—山上憶良	資料の精読・分析・考察	
12	大伴家持—青春時代、越中時代	資料の精読・分析・考察	
13	春愁三首—大伴家持の心	資料の精読・分析・考察	
14	東国の歌声—東歌、防人歌	資料の精読・分析・考察	
15	萬葉の終焉—いや重け吉事	授業の振り返り	
16	期末考査	テストの振り返り	
	テキスト・参考文献・資料など 『万葉集必携』 稲岡耕二編、學燈社。 『万葉集必携II』 稲岡耕二編、學燈社。 適宜指示する。		
	学びの手立て 辞典類を多く引きます。古語辞典だけではなく、日本史辞典や国語便覧、有職故実なども良く調べてから授業に参加してください。自明のことを自明とせず、しっかりと原点にあたるようにしてください。		
	評価 授業参加状況 20%、レジュメ 80%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本古典文学特論 I B
-------	-----------------------------

※ポリシーとの関連性 2. 南島文化について、幅広い分野の一流の講師陣が専門的な知識によって対話的な指導を行う特論科目の提供。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本古典文学特論 I B	後期	火 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	1年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義は、万葉集歌を扱う。今から1300年ほど前を生きた万葉びとが詠んだ歌を、時代背景・作歌状況・作者の個性・習俗・ことば等々を踏まえながら、一首一首深く読み解く読解トレーニングを行う。特に柿本人麻呂の歌を扱う。	『類聚名義抄』などの古辞書の引き方を覚えてください。 【実務経験】高等学校教諭だった現場経験を生かして、授業実践に関する視点を意識した指導を行います。

到達目標
1 柿本人麻呂の文字遣いについて、漢字資料の分析・検討をとおして、万葉仮名（文字）の訓法を習得する。
2 柿本人麻呂歌集歌における、漢字用例を分析し、万葉仮名（文字）における標示性と表現性を考察する力を身に付ける。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	万葉集と柿本人麻呂	シラバスの確認
	2	万葉仮名（文字）と訓法について	資料の精読・調査・分析
	3	人麻呂作歌の検討	資料の精読・調査・分析
	4	人麻呂作歌の検討	資料の精読・調査・分析
	5	人麻呂作歌の検討	資料の精読・調査・分析
	6	人麻呂作歌の検討	資料の精読・調査・分析
	7	人麻呂作歌の検討	資料の精読・調査・分析
	8	人麻呂作歌の検討	資料の精読・調査・分析
	9	人麻呂歌集歌の検討	資料の精読・調査・分析
	10	人麻呂歌集歌の検討	資料の精読・調査・分析
	11	人麻呂歌集歌の検討	資料の精読・調査・分析
	12	人麻呂歌集歌の検討	資料の精読・調査・分析
	13	人麻呂歌集歌の検討	資料の精読・調査・分析
	14	人麻呂歌集歌の検討	資料の精読・調査・分析
15	人麻呂歌集歌の検討	授業の振り返り	
16	期末考査	授業のまとめ・省察	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 『萬葉集』本文篇（塙書房） 伊藤博『萬葉集釋注』（集英社）、澤瀉久孝『萬葉集注釋』（中央公論社）
-------	---

学びの手立て	正宗敦夫『萬葉集總索引』などを活用して、用例を検討すること。解釈と表現、文字の連関と共起などの視点によって分析検討すること。
--------	--

評価	授業参加状況 20%、レジュメ 80%
----	---------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 仮名文字が出現する以前に使用されていた、万葉仮名（文字）は様々な分析検討が行われている。上代の文字に関する論文を読み、日本語（和語）と中国語（漢語）との関係について、考察する視点を見出してください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本古典文学特論ⅡA	前期	土4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	1年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 中世・近世の説話や歌謡を取り上げ、注釈をつけながら、日本の中世・近世文学の特質について考える。また、南島の説話や歌謡との比較も試みたい。	メッセージ テキスト注釈の楽しみを知ってほしい。
	到達目標 先行研究を踏まえ、緻密なレポートを作成する。	

学びの準備	到達目標 先行研究を踏まえ、緻密なレポートを作成する。
-------	--------------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	日本文学における中世と近世	プリントによる学習
	2	『日本霊異記』上巻・注釈	プリントによる学習
	3	『日本霊異記』中巻・注釈	プリントによる学習
	4	『日本霊異記』下巻・注釈	プリントによる学習
	5	『今昔物語集』天竺部・注釈	プリントによる学習
	6	『今昔物語集』震旦部・注釈	プリントによる学習
	7	『今昔物語集』本朝部・注釈	プリントによる学習
	8	『古事談』注釈	プリントによる学習
	9	『宇治拾遺物語』注釈	プリントによる学習
	10	『古今著聞集』注釈	プリントによる学習
	11	『沙石集』注釈	プリントによる学習
	12	『発心集』注釈	プリントによる学習
	13	『十訓抄』注釈	プリントによる学習
	14	南島文学との比較・遺老説伝を読む	プリントによる学習
	15	まとめ	レポート作成
16	レポートの書き方	レポート作成	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 適宜、指示する。
-------	----------------------------

学びの実践	学びの手立て 日本国語大辞典、沖縄古語大辞典など大きな事典類を引くこと。
-------	---

学びの実践	評価 レポートによって成績を評価する。100%
-------	----------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 「日本古典文学特論ⅡB」でも先行研究を踏まえた緻密なレポート作成を学ぶ。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本古典文学特論ⅡB	後期	土4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	1年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 中世・近世の説話や歌謡を取り上げ、注釈をつけながら、日本の中世・近世文学の特質について考える。また、南島の説話や歌謡との比較も試みたい。	メッセージ テキスト注釈の楽しみを知ってほしい。
	到達目標 先行研究を踏まえ、緻密なレポートを作成する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ

回	テーマ	時間外学習の内容
1	日本文学における中世と近世	プリントによる学習
2	『日本霊異記』上巻・注釈	プリントによる学習
3	『日本霊異記』中巻・注釈	プリントによる学習
4	『日本霊異記』下巻・注釈	プリントによる学習
5	『今昔物語集』天竺部・注釈	プリントによる学習
6	『今昔物語集』震旦部・注釈	プリントによる学習
7	『今昔物語集』本朝部・注釈	プリントによる学習
8	『古事談』注釈	プリントによる学習
9	『宇治拾遺物語』注釈	プリントによる学習
10	『古今著聞集』注釈	プリントによる学習
11	『沙石集』注釈	プリントによる学習
12	『発心集』注釈	プリントによる学習
13	『十訓抄』注釈	プリントによる学習
14	南島文学との比較・遺老説伝を読む	プリントによる学習
15	まとめ	レポートの作成
16	レポートの書き方	レポートの作成

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 適宜、指示する。
-------	----------------------------

学びの手立て	日本国語大辞典、沖縄古語大辞典など大きな事典類を引くこと。
--------	-------------------------------

評価	レポートによって成績を評価する。100%
----	----------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 先行研究を踏まえた緻密なレポート作成の能力は修士論文作成に役立つはずである。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	比較社会文化特論 I	前期	木 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上江洲 薫	1年	講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 沖縄社会のみならず、アジアおよび太平洋諸地域の社会構造や文化事象との比較の中で、大学院生各自の研究テーマに関連した社会的な視点を習得すること。	メッセージ 観光現象による地域社会や地域文化の影響や関連性を通して、観光地の地域構造と変動について学んでいきましょう。
	到達目標 社会構造とその変動および文化事象に関する文献精読とその理解、大学院生各自の研究テーマに関する発見力、応用力	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドダンス（本講義の概要など）	観光関連用語を調べる
	2	観光の誕生：疑似イベントとしての観光	観光の誕生の文献を読む
	3	植民地主義と観光イメージ：本物の文化とは	植民地主義的な観光の文献を読む
	4	メディアと観光：ハワイと沖縄の楽園イメージの形成	映画のイメージ形成の文献を読む
	5	観光と伝統の再構築：バリ島とアイス	伝統文化継承の文献を読む
	6	観光文化の可能性：フィジーの民族文化の演出	観光文化の文献を読む
	7	野外博物館とエコツーリズム	エコツーリズムの文献を読む
	8	持続可能な観光と環境保全（1）海外の持続可能な観光地域事例とエコツアー	持続可能な観光と取り組みを調べる
9	持続可能な観光と環境保線（2）宿泊施設の環境保全対策	ホテルの環境保全対策を調べる	
10	沖縄観光のイメージと伝統芸能：エイサー	エイサー等の文献を読む	
11	世界遺産と伝統的景観：沖縄の赤瓦住宅	景観の文献を読む	
12	ブルーツーリズムのコンフリクト：ダイビング	海洋観光の影響の文献を読む	
13	ダークツーリズムの可能性：究極の非日常	ダークツーリズムの文献を読む	
14	エスニックツーリズムと「カンニバル・ツアーズ」	エスニックツーリズムの文献を読む	
15	アニメ聖地巡礼と情報化社会	コンテンツツーリズムの文献を読む	
16	まとめ：課題作成	全体をふりかえる	
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストの指定はないが、授業計画に記した内容に関する文献・資料などを適宜紹介し、発表課題としてする。 参考文献：①観光人類学（山下晋司編、新曜社）、②途上国観光論（マーチン・オッパーマン、ケー・スン・チョン著、学文社）、③貧困克服のためのツーリズム（高寺奎一郎著、古今書院）、④観光開発と文化（橋本和也・佐藤幸男編、世界思想社）など		
	学びの手立て		
	大学院生各自の研究テーマに関連して、観光現象による地域社会や地域文化の影響や関連性に関する文献を選書し精読する。また、沖縄社会のみならずアジア、太平洋諸地域との比較検討が可能となるような文献等も精読する。これらの文献に関するレジュメを大学院生各自が作成し、発表する。発表後に講義担当教員とディスカッションを行い、各自の研究テーマとどのように関連するのか、どのような発見があるのかについて相互に理解を深める。		
	評価		
	文献精読とその理解度・説明・ディスカッション参加度（80点）、レポート作成（20点）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：比較社会文化特論 II
-------	---------------------------------



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	比較社会文化特論 I	前期	水 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	1年	講義終了後あるいはメール等でも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	沖縄社会のみならず、アジアおよび太平洋諸地域の社会構造や文化事象との比較の中で、大学院生各自の研究テーマに関連した社会的な視点を習得すること。	アジアおよび太平洋諸地域の社会構造や文化事象との比較を通して、沖縄社会の構造と変動について学んでいきましょう。

到達目標	社会構造とその変動および文化事象に関する文献精読とその理解、大学院生各自の研究テーマに関する発見力、応用力
------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）  大学院生各自の研究テーマに即して、沖縄社会の構造と変動および文化事象に関する文献を選書し精読する。また、沖縄社会のみならずアジア、太平洋諸地域との比較検討が可能となるような文献等も精読する。これらの文献に関するレジュメを大学院生各自が作成し、発表してもらう。発表後に講義担当教員とディスカッションを行い、各自の研究テーマとどのように関連するのか、どのような発見があるのかについて相互に理解を深める。
	テキスト・参考文献・資料など テキストの指定はないが、授業計画に記した内容に関する文献・資料などを適宜紹介し、発表課題としてする。

学びの手立て	大学院における少人数制の講義であるため、課題への取り組みが重要なポイントとなる。ただし、ただ単に文献を読みレジュメを作成し発表するだけではなく、文献の理解度、ポイントの整理力、自身の研究テーマに関連した発見や応用力がより重要となる。
--------	--

評価	出席状況、課題への取り組み（文献精読とその理解度、レジュメ作成の要領、口頭発表など）、自身の研究テーマに関連した発見、応用力等を鑑み総合的に評価する。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：比較社会文化特論 II
-------	---------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	比較社会文化特論Ⅱ	後期	水6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	1年	講義終了後またはメール等で問い合わせください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、ドキュメント分析、会話分析、聞き取り調査、参与観察など質的調査の方法に依拠したフィールドワークを行うためのトレーニングを目的とする。とくに、新聞・雑誌記事、資料文書などのデータの分析法（内容分析等）を習得するとともに、聞き取り調査、参与観察法、ドキュメント分析、ライフヒストリー分析などに関する基本的理解を踏まえながら、実践的な学習を行う。</p>	<p>学部で学んだ質的調査の方法を修士論文レベルで考え、使用し、マスターするための科目です。本科目は専門社会調査士資格の認定科目です。資格取得を目指す大学院生は、必ず履修してください。</p>
到達目標	社会調査における質的方法の知識と技能をマスターし、修士論文の研究方法に使用できるようにする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：参考資料等の配布	質的調査の種類を調べる
	2	問題発見と問題構成（質的調査とその分析の意義・目的-仮説検証と仮説発見・構成の相違）	質的調査の事例を集める
	3	質的データ分析の一般理論的基礎①：ミルズ「類型的語彙」論	発話行為の社会学的意味を考察する
	4	質的データ分析の一般理論的基礎②：ガーフィンケル「エスノメソドロジー」	発話行為の社会学的意味を考察する
	5	質的データ分析の一般理論的基礎③：ゴフマン「行為の演技論」	身振りの社会性を考察する
	6	質的データ分析の一般理論的基礎④：現象学的社会学における「間-主観性」と調査の主・客問題	主観と間-主観の違いを調べる
	7	質的データ分析の実践①：内容分析（新聞・雑誌記事、資料文書等）	ドキュメント分析資料の収集
	8	質的データ分析の実践②：ドキュメント分析（記録日誌、日記、手紙等の分析）	ドキュメント分析の実践
	9	質的データ分析の実践③：聞き取り調査によるデータ収集の問題（インタビュー空間の設定と臨床性）	聞き取り調査の実践
	10	質的データ分析の実践④：ライフヒストリー分析（日常的経験世界と「語られる」経験世界の境界）	生活史法の事例を集める
	11	質的データ分析の実践⑤：様々な観察法I（参与観察と非参与観察の境界）	参与観察法の事例を集める
	12	質的データ分析の実践⑥：様々な観察法II（組織的観察法と非組織的観察法など）	観察方法の要点をまとめる
	13	学生の個別テーマに則した質的調査法と分析法の討議①	研究論文での質的調査の応用
14	学生の個別テーマに則した質的調査法と分析法の討議②	研究論文での質的調査の応用	
15	まとめとふりかえり	研究論文での質的調査の応用	
16	補習	ふりかえりと修士論文指導	
テキスト・参考文献・資料など	<p>佐藤郁哉『質的データ分析法—原理・方法・実践』、新曜社、2008年。谷富夫編『ライフヒストリーを学ぶ人のために』、世界思想社、1996年。適宜紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>大学院教育の目標である修士論文の調査研究を前提とした講義になる。研究テーマの具体的な論理展開の参考にできるように心がけてください。</p>		
評価	<p>提出物（論文・レポートなど）、平常点（出席回数、発表やディスカッションへの取り組み姿勢）</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>南島社会文化特殊研究Ⅰ・Ⅱ</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

「南島文化」をより深く理解するためには、周辺地域との比較という視点もまた重要である。本科目の存在意義はそこにある。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	東アジア文化人類学特論 I A	前期	火 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	石垣 直	1年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業の主眼は、東アジアの諸社会・文化に関する基礎的な理解を深めることにある。この目標を達成するため、今年度前期は中国とくに「漢民族」（漢族）の親族・社会組織について講義するとともに、主要著作・論文を複数取り上げて輪読する。	メッセージ 前半の数回において「文化人類学」および「東アジア」に関する基礎的知識を講義し、それ以降は担当を決め、各履修者の発表ならびに質疑応答を通じて内容の理解を深める。取り上げる著作・論文は授業の際に改めて提示する。
	到達目標 中国・華人地域を事例としながら、東アジア社会の親族・社会組織に関する基礎的な理解を得ることができる。その理解のプロセスにおいて、（周辺の）異文化・社会との対比において、各自が属する社会・文化を比較文化的あるいは文化人類学的視点から捉え直すことができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	講義の概要を理解する。
	2	文化人類学概論（1）	文化人類学の基礎を復習する。
3	文化人類学概論（2）	文化人類学の基礎を復習する。	
4	人類学と東アジア研究	東アジア研究を調べる。	
5	漢族社会とタテのつながり	漢族の親族について調べる。	
6	漢族社会とヨコのつながり	漢族の社会関係を調べる。	
7	文献資料読解（1）	文献を読み込み要約する。	
8	文献資料読解（2）	文献を読み込み要約する。	
9	文献資料読解（3）	文献を読み込み要約する。	
10	文献資料読解（4）	文献を読み込み要約する。	
11	文献資料読解（5）	文献を読み込み要約する。	
12	文献資料読解（6）	文献を読み込み要約する。	
13	個人発表（1）	個人発表の準備をする。	
14	個人発表（2）	個人発表の準備をする。	
15	まとめ	全体の講義内容を復習する。	
16	（予備日）		
	テキスト・参考文献・資料など ・テキストは特になし。 ・主要参考文献は次の通り。 瀬川昌久2004『中国社会の人類学——親族・家族からの展望』世界思想社 瀬川昌久・西澤治彦（編訳）2006『中国文化人類学リーディングス』風響社 ・その他の関連文献については授業の際に随時紹介する。		
	学びの手立て 中国・華人地域の事象ならびに広く文化人類学全般の議論を紹介するが、それらの視座・分析手法・論理構成を各自の修士論文にどのように活用できるかを常に意識しながら授業に臨んでほしい。		
	評価 授業への出席および積極的な授業態度を重視する。その上で、学期末に提出してもらったレポート（テーマは学生が主体的に選択。各自の修士論文に関わるもので構わない）の内容を踏まえ、総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本・沖縄の文化は勿論のこと、アジア地域に関する他領域の科目（基礎知識が乏しい場合は学部の授業も含む）なども積極的に履修してほしい。
-------	---

※ポリシーとの関連性 「南島文化」をより深く理解するためには、周辺地域との比較という視点もまた重要である。本科目の存在意義はそこにある。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	東アジア文化人類学特論 I B	後期	火 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	石垣 直	1年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業の主眼は、東アジアの諸社会・文化に関する基礎的理解を深めることにある。	メッセージ 前半の数回において「漢族の年中行事」および「儒教・仏教・道教」に関する基礎的知識を講義し、それ以降は担当を決めて各履修者が担当の著作・論文の内容を発表し、質疑応答を通じて理解を深める。取り上げる著作・論文は授業の際に改めて提示する。
	到達目標 中国・華人地域を事例としながら、東アジアの社会・文化に影響を与えてきた漢族の宗教に関する基礎的な理解を得ることができる。その理解のプロセスにおいて、(周辺の)異文化・社会との対比において、各自が属する社会・文化を比較文化的あるいは文化人類学的視点から捉え直すことができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	
	1	ガイダンス	
	2	中国の年中行事	
		時間外学習の内容	
	3	中国の思想と宗教(1)——儒教	講義の概要を理解する。
	4	中国の思想と宗教(2)——仏教	中国の年中行事を調べる。
	5	中国の思想と宗教(3)——道教	儒教の成立と展開を調べる。
	6	中国の思想と宗教(4)——民俗宗教の世界	仏教の伝来と展開を調べる。
	7	文献資料読解(1)	道教の基礎と展開を調べる。
	8	文献資料読解(2)	民衆と宗教の関係を調べる。
	9	文献資料読解(3)	文献を読み込み要約する。
	10	文献資料読解(4)	文献を読み込み要約する。
	11	文献資料読解(5)	文献を読み込み要約する。
	12	文献資料読解(6)	文献を読み込み要約する。
	13	個人発表(1)	個人発表の準備をする。
	14	個人発表(2)	個人発表の準備をする。
	15	まとめ	全体の講義内容を復習する。
	16	(予備日)	
	テキスト・参考文献・資料など		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストは特になし。</li> <li>・主要参考文献は次の通りである。</li> <li>五十嵐真子2006『現代台湾宗教の諸相——台湾漢族に関する文化人類学的研究』人文書院</li> <li>川口幸大・瀬川昌久(編)2013『現代中国の宗教——信仰と社会をめぐる民族誌』昭和堂</li> <li>渡邊欣雄1991『漢民族の宗教——社会人類学的研究』第一書房</li> <li>・その他の関連文献については、授業の際に随時紹介する。</li> </ul>		
	学びの手立て		
	中国・華人地域の事象ならびに広く文化人類学全般の議論を紹介するが、それらの視座・分析手法・論理構成を各自の修士論文にどのように活用できるかを常に意識しながら、授業に臨んでほしい。		
	評価		
	授業への出席および積極的な授業態度を重視する。その上で、学期末に提出してもらったレポート(テーマは学生が主体的に選択。各自の修士論文に関わるもので構わない)の内容を踏まえ、総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本・沖縄の文化は勿論のこと、アジア地域に関する他領域の科目(基礎知識が乏しい場合は学部の授業も含む)なども積極的に履修してほしい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化財保存特論	後期	月6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 文化財、歴史遺産を中心に、保護や活用の在り方について学ぶ。特に国内の文化財保護法のもと実施されている、史跡の保存修復事業や、世界遺産の保存活用の在り方について紹介する。調査研究、保存技術などの成果に学び、復元整備と環境活用の実情や課題などを具体的に紹介し考える。	メッセージ 身近な文化財について、保存するための様々な知恵と工夫と一緒に考えましょう。
	到達目標 現代社会における文化財保護の在り方、活用について理解できるようになる。 文化財をつなぎストーリーを組み立てることができるようになる。 文化遺産が抱える課題について解決方法を検討することができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	文化財とは何か？	配布資料を精読すること
	2	文化財保護と整備の歴史	配布資料を精読すること
	3	文化遺産に関する国際憲章	配布資料を精読すること
	4	史跡整備の事業過程	配布資料を精読すること
	5	整備の計画と基本構想	配布資料を精読すること
	6	史跡の復元と表現の方法	配布資料を精読すること
	7	石垣の修理と復旧	配布資料を精読すること
	8	史跡の解説と案内板	配布資料を精読すること
9	史跡における体験学習	配布資料を精読すること	
10	文化財の防災	配布資料を精読すること	
11	歴史・文化遺産の整備の実例紹介（受講生による発表）	配布資料を精読すること	
12	史跡の維持管理	配布資料を精読すること	
13	地域の歴史的魅力や特色を語るストーリー	配布資料を精読すること	
14	史跡活用の取り組み	配布資料を精読すること	
15	ボランティア、市民参加による史跡の活用	配布資料を精読すること	
16	期末レポート提出		
	テキスト・参考文献・資料など テキストは用いない。毎回講義で参考資料を配布する。 参考文献『史跡整備のてびき 保存と活用のために』文化庁文化財部記念物課（監修）2005年 同成社		
	学びの手立て 文化財は有形無形様々なものがある。本講義では遺跡（史跡）を中心に講義を行うが、広く様々な文化財があることを認識すること。地域にある文化財について、遺跡に限らず広く関心を持つこと。		
	評価 平常点(50%)、期末レポート(50%)で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「考古学特論Ⅰ・Ⅱ」「南島先史文化特論Ⅰ・Ⅱ」「南島史学特論Ⅰ・Ⅱ」「南島民俗特論Ⅰ・Ⅱ」「南島地理学特論Ⅰ・Ⅱ」
-------	--